



Annual Report 2019

公益財団法人 石橋財団 アニュアル・レポート



目次 | Contents

はじめに Foreword	4
設立趣旨 Brief History	6
機構・運営 Organization and Management	7

新美術館の準備

1. 館名の変更	10
2. 新美術館施設概要	10
3. ビル工事の進捗	11
4. 竣工式	12
5. 美術館工事の進捗	13
6. 日時指定予約制	19
7. プレス内覧会開催	20
8. ITシステム構築	21

美術館活動

1. 新収蔵作品 New Acquisitions	28
2. 教育普及—アーティゾン美術館 プレオープンプログラム	37
3. 教育普及—石橋財団アートリサーチセンター ラーニングプログラム	41
4. 教育普及—アウトリーチ	47
5. 図書公開	49
6. 新収蔵図書	50
7. 修復記録	51
8. 作品貸出記録	52
9. 調査研究(個人)	54
10. 広報事業 Public Relations	56
11. ウェブサイト刷新	63
12. 刊行物一覧	65

寄付助成事業

1. 概要	68
2. 2019年度寄付助成実績一覧	69
3. 2019年度の主な寄付助成事業	70

京橋彩区での活動

石橋財団案内 Guide to the Ishibashi Foundation	74
石橋財団職員	75

はじめに

公益財団法人石橋財団の2本の柱は「美術館事業」と「寄付助成事業」である。2019年は当財団にとって、新たな一歩を踏み出す年になった。

7月1日に館名を「アーティゾン美術館」に変更した。1952年に石橋正二郎が創設したブリヂストン美術館は、フランス印象派や日本近代洋画を中心とした美術館として60年以上にわたり親しまれてきたが、2015年5月よりブリヂストンビルの建て替えのために休館していた。7月に「ミュージアムタワー京橋」が竣工し、「アーティゾン美術館」として新たなスタートを切ることになった。

2020年1月18日のアーティゾン美術館オープンを目指し、9月1日に銀座一丁目の美術館事務所は京橋に引っ越し、併せて長年麻布永坂町にあった財団事務局やブリヂストン美術館永坂分室も移転して、一体となって事業に取り組んだ。

新しい美術館のあり方については、それに先立つ2012年から構想してきた。「ミュージアムタワー京橋」は防災や事業継続の観点から免震構造を採用し受変電設備や非常用発電機等を設置している。その低層階(1階から6階)を占める「アーティゾン美術館」

は、正面入り口を従来の八重洲通り側から中央通り(銀座通り)側に移し、1階はロビーとカフェ、2階はミュージアムショップ、3階はレクチャールームを配し、展示室は3フロア(6、5、4階)で面積は約2倍、天井高は1.7倍になり、大型作品の展示も可能となった。開かれた空間を創出し、細部までこだわった空間デザインや素材、最新の照明や空調、展示環境の設備、ITシステムを駆使したアプリ開発、日時指定予約制や危険物検知ゲートシステムの導入等、お客様に快適な鑑賞空間を提供するため創意工夫をこらした。

建物だけではなく、展覧会や作品収集、教育普及事業、広報・出版事業、アトリサーチセンターでの活動等においても、旧ブリヂストン美術館のDNAを引き継ぎながら、「創造の体感」をコンセプトに新しい時代にあるべき姿を目指す多彩な美術館に相応しい事業を模索し、2020年の開館に備え準備に取り組んだ。「寄付助成事業」もより国際的な展開をみせている。ここに2019年の当財団の活動を報告する。

公益財団法人 石橋財団

Foreword

The two pillars of the Ishibashi Foundation are museum programs and grant programs. The year 2019 marks a new step forward for the foundation.

The name of the museum was changed to Artizon Museum on July 1. The Bridgestone Museum of Art, which was founded by Ishibashi Shojiro in 1952, was known for its collection of French Impressionism and modern Japanese Western-style paintings for more than 60 years. The museum was closed in May 2015 due to the rebuilding of the Bridgestone Building. Museum Tower Kyobashi was completed in July, and the museum was relaunched as the new Artizon Museum.

In preparation for the January 18, 2020 opening of Artizon Museum, the museum offices were moved from Ginza 1-chome to Kyobashi on September 1, and the foundation offices as well as the Bridgestone Museum of Art Annex were also moved to Kyobashi from their long-time location in Azabu Nagasaka-cho, bringing the organizations together.

The design of the new museum was conceived earlier, starting in 2012. For the sake of disaster prevention and business continuity, Museum Tower Kyobashi was built with a seismic isolation structure and is equipped with an electric power substation, emergency generators, and other emergency equipment. The lower stories of the building are occupied by the Artizon Museum (floors 1 to 6), and the front entrance leading to the middle stories has been moved from the Yaesu-dori side to the Chuo-dori (Ginza-dori) side. The lobby and café are located

on the first floor, the museum shop is on the second floor, and a lecture room is on the third floor. The exhibition spaces are located on three stories (floors 6, 5, and 4), with approximately double the area, and the ceilings are 1.7 times higher, making it possible to accommodate large pieces. A great deal of effort and creativity has gone into providing visitors with a comfortable space for art appreciation, including wide-open spaces, attention to detail in spatial design and selection of materials, the latest in lighting and air conditioning, systems to optimize the exhibition environment, app development using IT systems, a timed-entry reservation system, and a hazard detection gate system.

Not only with regard to the building, but in all of our activities, which include researching for exhibitions, building the collection, conducting educational programs, publicity and publishing, and activities at the Art Research Center, we sought to become an organization that is optimally suited for a multifaceted museum as we worked hard on preparations for the museum's opening in 2020 and looked ahead to a new era, based on the concept of "Experiencing Creativity," while upholding the spirit of the former Bridgestone Museum of Art. The foundation's grant programs have been expanding internationally as well. Here, we will report on the activities of the Ishibashi Foundation during 2019.

Ishibashi Foundation

設立趣旨 | Brief History

石橋財団は、株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎(1889–1976)によって設立されたもので、美術館事業、および芸術・文化・教育活動を支援する寄付助成事業を2本の柱として活動している。

1952(昭和27)年1月8日、ブリヂストン美術館は、石橋正二郎が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を、社会公共のため、広く一般の鑑賞に供し、文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき、ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設された。その後の1956(昭和31)年4月に、石橋財団が設立され、その運営を継承。1961(昭和36)年9月には同財団が石橋正二郎から所蔵美術品の寄贈を受けた。1999(平成11)年および2003(平成15)年の施設リニューアルを経て、2015(平成27)年5月よりビルの建て替え工事のため休館。その間、1977(昭和52)年4月より運営を担った石橋美術館(1956年開館)について、2016(平成28)年10月にその運営を久留米市へ返還した。2019(令和元)年7月、ビルの竣工とともに館名をアーティゾン美術館に改称し、2020(令和2)年1月にオープンした。

The Ishibashi Foundation was established by Ishibashi Shojiro (1889–1976), the founder of Bridgestone Corporation. The two pillars of the foundation's activities are museum programs and grant programs, which support artistic, cultural, and educational activities.

The Bridgestone Museum of Art was founded with the goal of contributing to cultural development by making it possible for the general public to view the works of art that Ishibashi Shojiro had collected with care over a period of many years, both within Japan and internationally. The museum was opened on January 8, 1952, the completion date of the Bridgestone Building, which housed it. The Ishibashi Foundation was established in April 1956 and took over the operation of the Bridgestone Museum of Art. Ishibashi Shojiro donated his art collection to the foundation in September 1961. The museum's facilities were renovated in 1999, and again in 2003. In May 2015, the museum was closed for a building reconstruction project. (Subsequently, operation of the Ishibashi Museum of Art was returned to Kurume City in October 2016; that museum was opened in 1956 and had been operated by the foundation since April 1977.) The museum's name was changed to Artizon Museum upon completion of the building in July 2019, and it opened in January 2020.

公益財団法人石橋財団

(2019年12月31日現在)

理事長	石橋 寛		
常務理事	西嶋 大二		
理事	滝口 勝昭	水戸岡 鋭治	石橋 直樹
	今津 幸子		
監事	林 克次	小野寺 重穂	
評議員	高階 秀爾	村上 浩	小林 忠
	加瀬 英明	小嶋 英熙	長谷川 俊明
	河野 雅治	平井 一夫	

美術館運営委員会

委員長	石橋 寛		
委員	高階 秀爾	小林 忠	島田 紀夫
	西嶋 大二	松本 透	

寄付助成選考委員会

委員長	石橋 寛		
委員	村上 浩	島田 紀夫	小嶋 英熙
	石橋 直樹	西嶋 大二	今津 幸子

事務局

事務局長	浦見 忠
------	------

アーティゾン美術館

館長	石橋 寛
----	------

Ishibashi Foundation

(As of December 31, 2019)

President of the Board of Directors	
	ISHIBASHI Hiroshi
Managing Director	NISHIJIMA Taiji
Directors	TAKIGUCHI Katsuaki
	MITOOKA Eiji
	ISHIBASHI Naoki
	IMAZU Yukiko
Auditors	HAYASHI Katsuji
	ONODERA Shigeo
Council Members	TAKASHINA Shuji
	MURAKAMI Hiroshi
	KOBAYASHI Tadashi
	KASE Hideaki
	KOJIMA Hidehiro
	HASEGAWA Toshiaki
	KOHNO Masaharu
	HIRAI Kazuo

Executive Committee of the Museum

Chairman	ISHIBASHI Hiroshi
Members	TAKASHINA Shuji
	KOBAYASHI Tadashi
	SHIMADA Norio
	NISHIJIMA Taiji
	MATSUMOTO Toru

Program Development Grant Committee

Chairman	ISHIBASHI Hiroshi
Members	MURAKAMI Hiroshi
	SHIMADA Norio
	KOJIMA Hidehiro
	ISHIBASHI Naoki
	NISHIJIMA Taiji
	IMAZU Yukiko

Administration

Executive Secretary	URAMI Tadashi
----------------------------	---------------

Artizon Museum

Director	ISHIBASHI Hiroshi
-----------------	-------------------

新美術館の準備

ARTIZON MUSEUM

ARTIZON
MUSEUM



1. 館名の変更

2019年7月より館名をプリチストン美術館から「アーティゾン美術館」(ARTIZON MUSEUM)へ変更した。「ARTIZON」は「ART」と「HORIZON(地平)」からの造語である。約40年程前、創設者・石橋正二郎の時代にも館名変更は検討されたが実現しなかった。2020年1月の開館を機に、新たな方向へ踏み出す決意の表れとして行うものである。

アーティゾン美術館 ARTIZON MUSEUM

目の前に、過去から現在までの様々なアート作品が広がっている。視線が及ぶ果てでは、新しい作品が現在進行形で創造されつつある。そのさらに向こうからは、まだ見ぬ作品が姿を現そうとしている。1952年の開館当時、プリチストン美術館は石橋コレクションを公開するとともに、同時代の作品を広く紹介する役割も担っていた。新しい美術館も、過去から現在までアートの美の地平を見渡すことができ、アートの夢や未来を予感させ、創造性の胎動が感じられる場を目指したい。

2. 新美術館施設概要

建築概要

建築名称: 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館
所在地: 東京都中央区京橋1丁目7-2
ミュージアムタワー京橋内*
敷地面積: 2,813.74m²
建築面積: 2,212.83m²
延べ面積: 6,703.47m²
展示面積: 2,108m²
(4階 724m²、5階 639m²、6階 745m²)
構造: 基礎免震、S造、一部RC・SRC造
階数: 1階から6階(オープンエリア)
竣工: 2019年7月1日

設計・監理: 株式会社日建設計
美術館内装デザイン: TONERICO:INC.
施工: 戸田建設株式会社

*ミュージアムタワー京橋 地上23階、塔屋2階、地下2階

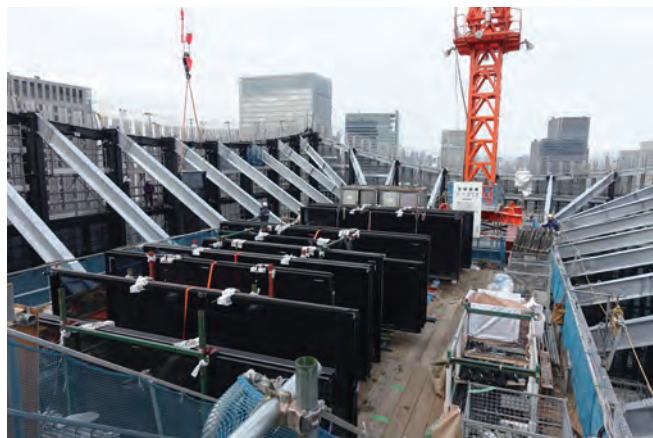
3. ビル工事の進捗

2019年は各階で総仕上げの工事が進められた。

屋上設備機器の設置が完了し、2月にクレーンや仮設エレベーターが解体されると低層部においても後施工部の外装工事が開始され、中央通り側のファサードがその全容を現した。4月には1階カフェの戸田建設側外装、高さ8メートルに及ぶ大回転扉9枚が設置され、エントランス吹抜け部の内装工事が一気に進んだ。

建物全体では高層階の緑化工事、オフィスフロアの内装工事、美術館展示室等の内装工事、ビル外構工事などが同時進行で行われ、受電、通水が実施されると設備機器の試運転も始まり、ビル全体が生き物のように動き出した。

そして、6月中旬には美術館の館名サインが設置され、7月の竣工引渡しを迎えたのである。



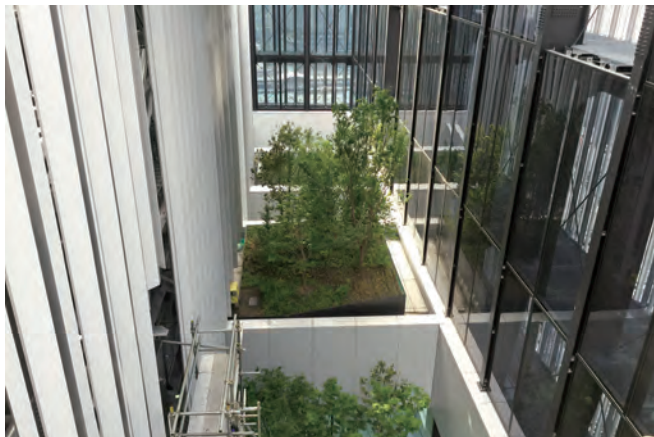
クレーンによる屋上外装工事の様子



中央通り側ビル低層部の施工開始



1階大回転扉設置の様子



22階オフィスフロアの屋上庭園



美術館エントランスに設置された館名サイン

4. 竣工式

2019年7月5日、ミュージアムタワー京橋の竣工式が開催された。定礎式に続き、神事が執り行われ、内覧会では屋上からオフィスフロア、美術館をご案内し、21階にて祝賀会が催された。



定礎式の除幕



神事 玉串の奉納



内覧会 設計者による説明ツアー

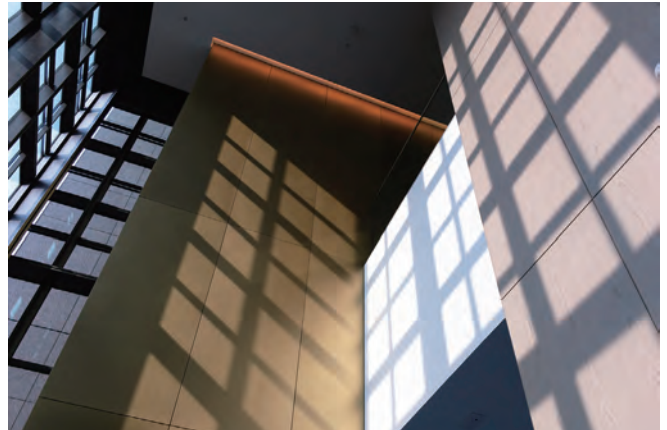


祝賀会の様子

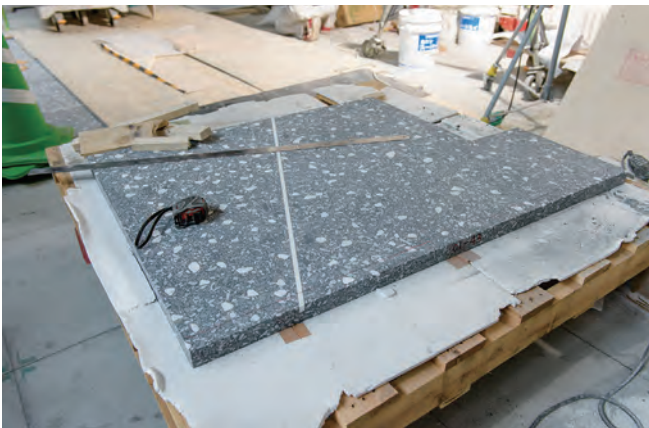
5. 美術館工事の進捗

内装工事

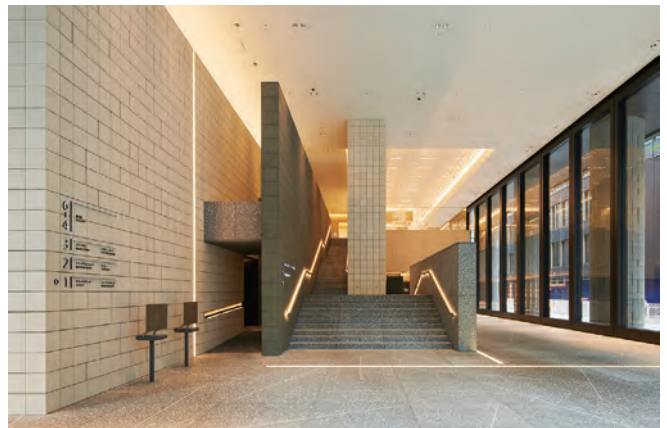
美術館の内装は、デザインイメージパース(CG)を忠実に再現した形で急ピッチで進められた。パブリックスペースとなる1階・2階には、床に特注のパターンを織り込んだ1.2メートル角となる大型人工大理石が敷き詰められ、また、花崗岩、インド砂岩による石積みの大壁が立てられエントランス空間を機能的かつ表情豊かに仕切った。2階ミュージアムショップ、3階のレクチャールームの内装に加え最新AV設備の設置、また3階クロックカウンターの背後には美術館シンボルともなる巨大ワイヤーオブジェ《FOAM》がその姿を現した。内装も進み3階から5階を吹き抜けとした天井高16.5メートルのアトリウムは、縦に重なる展示室を開放的につなぎ、明るいベージュ色に染めた木材や無垢の真鍮、リン酸処理されたスチール、白塗り壁など様々な壁面を組み合わせたアーティゾン美術館ならではの意匠が独自の空間をつくりだした。



様々な素材が織りなす壁面(3階から5階の吹き抜け)



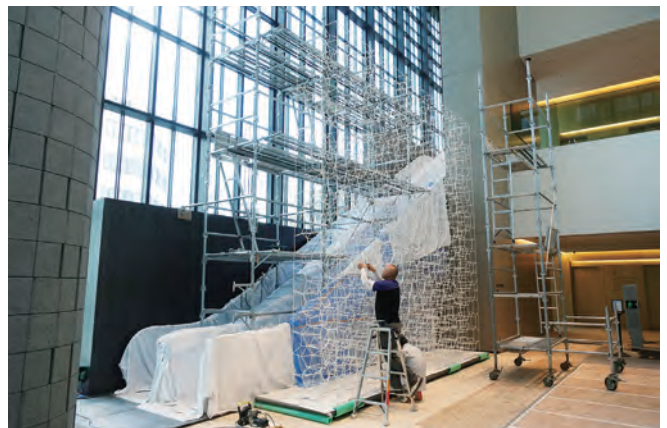
1階の床材となる特注人工大理石



完成した1階エントランス



ミリ単位で設置される石積みの壁面と床材



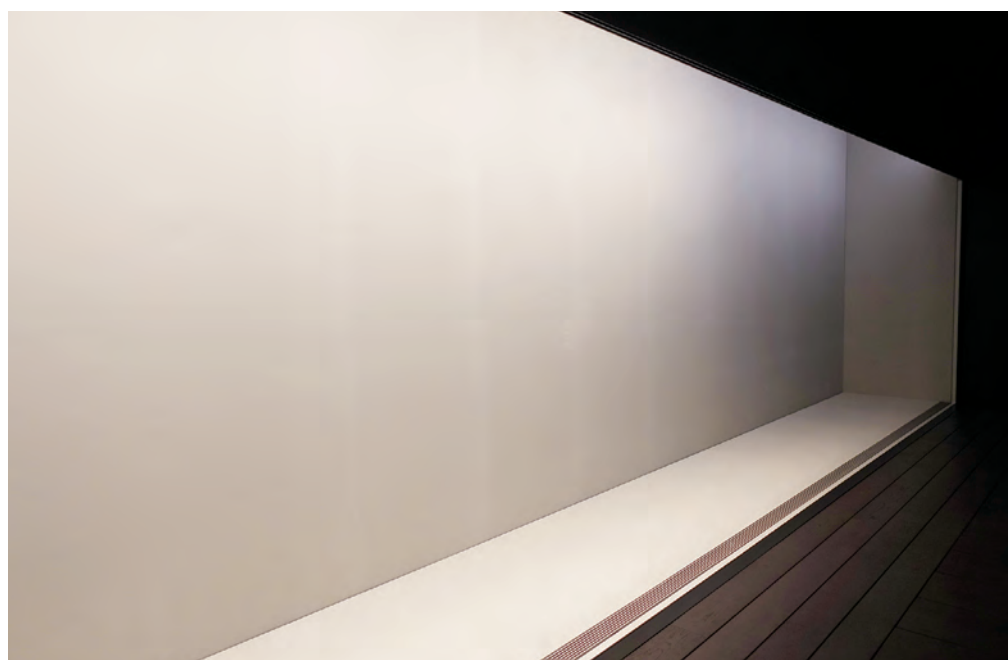
ワイヤーオブジェ《FOAM》の設置(3階)

4階展示ケース室の設置

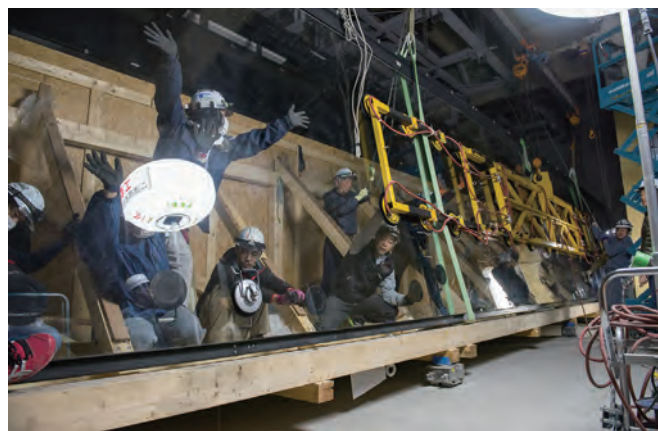
ビル工事工程により2018年夏に4階に搬入し保管していた幅15メートルの展示ケース用ガラスは、周囲の内装進展に合わせてようやくその設置工事を開始した。ドイツ・グラスパウハーン社からの技術者が日本に長期滞在し、照明システムを含んだ、全体の組み立てを最後までディレクションした。設置後、室内全体はガラスへの反射を抑えるため壁面、天井に久住有生親方(左官職人)により黒漆喰を施した。結果、ガラスの存在をほとんど感じさせない新しい展示ケースの体験が生まれた。



ドイツ・グラスパウハーン社からの技術者



幅15mの1枚ガラスによる展示ケース室



巨大ガラスの設置作業



久住有生親方(左官職人)

田中信太郎彫刻作品の展示

2015年のビル解体時より保存を続けてきた、彫刻家・田中信太郎氏による作品《ソトキ音楽ガキコエハジメタ》(1986)を6階の展示ロビーに設置した。田中氏の作品復元のアイデアにより、もともと大理石のみであった壁面は、新しい美術館に合わせてフラットLEDを組み合わせた大理石の光壁として創り直し、柔らかい光を背景とした新しい作品に生まれ変わった。田中信太郎氏は、残念ながら完成した作品を確認できないまま2019年8月にご逝去された。



完成した光壁による作品



田中信太郎氏による光壁モックアップの確認



壁の設置

展示室の内装仕上げ

4階・5階・6階の展示室の内装仕上げは天井、壁面、床などへ細心の注意が払われた。面積的にかなりの大きさがあるため、多数のスタッフが時間を費やし検査を重ね、竣工後も壁面、床面を中心に幾度となく下地のやり直し、壁面塗装やフローリングの張り替えなどあらゆる点での是正が重ねられた。

一方、吹き抜け部分の各階の展示ロビーには、かねてより計画されたチームラボ社によるデジタルコレクションウォールのモニター設置をはじめ、常設となる《勝利の女神》などの彫刻が展示され、美術館空間が一気に際立っていった。



展示室最終仕上げの様子



クリスチャン・ダニエル・ラウホ《勝利の女神》の設置(4階展示ロビー)



デジタルコレクションウォールの設置

FFE工事他

FFE(造作家具・備品)工事および納品が始まるにあたり、特にトネリコ社でオリジナルに開発した家具(チェア、ソファ)の最終検査が行われた。カフェ、展示室を中心とするテーブル、アームチェア、ソファは、快適な美術館のイメージを担うもので、その品質には高いレベルが望まれた。家具生産で著名な北海道旭川での製作(カンディハウス社、アルフレックスジャパン社)はその高い要求に応えるものとなった。また、今回、以前より保管していた世界的なインテリアデザイナー倉俣史朗(1934-1991)によるオリジナルソファを修復し復活させた。



カンディハウス社によるアームチェア製作の様子



アルフレックスジャパン社による革張りソファ製作の様子



インテリアデザイナーの倉俣史朗による一人掛けソファを修復使用

サインの設置

施設案内であり建築・インテリアの重要なアクセントとなるサインを設置した。極細のLEDライトを使用した新開発の発光サインは、壁面内に回路を組み込む必要があり、建築工事との緻密な連携が求められた。屋外サインには3つの展覧会を同時紹介できるよう3本の自立ポスターケースを設け、さらにバナー用のポール2本を準備した。また「京橋彩区」の広場完成時には美術館表示の要となる、ARTIZON MUSEUMロゴタイプを掲げた大型曲げガラスの自立サインも完成し、道ゆく人々に向けた中央通りの顔として現代的な姿を現した。



極細のLEDライトを組み込んだ案内サイン

セキュリティゲート

当館の基本方針ともいえるセキュリティ強化を最新テクノロジーで実現すべく、セキュリティゲートシステムを3階有料ゾーン入口に設置した。米国エボルプテクノロジー社による新型ボディスキャナー「エボルプエッジ」はミリ波を使用し従来の金属探知機、X線スキャナーの機能を統合したもので、プログラムされた危険物を瞬時にモニターに映し出す。従来のようにチェックのために来館者が立ち止まる必要がないため、混雑時においても混雑なくボディスキャンを可能とした。今後の日本の美術館・博物館におけるソフトターゲット対策を先取りする一歩となった。



最新テクノロジーによるセキュリティゲートの設置(3階)



美術館前の広場に設置したポスターケース



曲げガラスサイン完成検査(美術館ロゴタイプをガラス内に封入)

IPM清掃と環境調査

建築工事を通じて4階から6階の展示室および作品の一時保管庫等に堆積した塵埃類を除去する特殊清掃を約1カ月にわたって実施した。この清掃は、人間と環境への影響を少なくするIPM(総合的有害生物管理 Integrated Pest Management)の考えに基づくもので、作品に影響を及ぼす化学物質の放出を軽減するほか、文化財害虫の発生を抑制するもの。

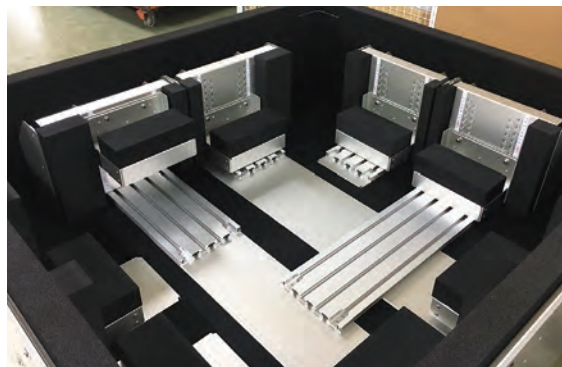
清掃実施の結果、作品の保管・展示に向けて清浄な空間が整備された。独立行政法人国立文化財機構文化財活用センターに助言を依頼し、展示室および作品の一時保管庫等の環境調査を実施。空気質調査と温湿度調査の調査結果を随時報告し、見解と助言を受けるほか、8月29日には同センターによる現地調査の実施を経て、開館に向け文化財の保存展示を行う環境として最適化を図った。



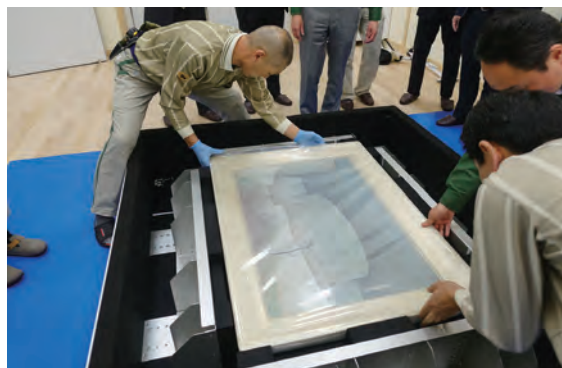
IPM清掃の様子

汎用クレートの開発

作品輸送では、環境に優しいゼロ・エミッションの観点から、長期的に繰り返し使える軽量金属製による汎用クレートの開発に取り組んだ。ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社との共同開発で、仕様および素材の安全性能を様々に試行錯誤した結果、金属(アルミ)製のクレートが完成し、美術館開館記念展の作品輸送から使用した。



汎用クレート試作改良品(20号サイズ):金属(アルミ)製



梱包の様子



外装や重量なども確認

6. 日時指定予約制

アーティゾン美術館は、ウェブサイトから来館者の希望する日時を予約しご来館いただく、日時指定予約制を導入した。2019年11月1日より予約販売を開始した。なお、予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でのチケット販売も併用する。

導入理由

最適な鑑賞環境の提供

事前予約により、チケット購入や入館のための混雑を減らし、来館者をお待たせし並ぶような状況が出来うる限り減らす。また、時間枠の人数を制限することにより、展覧会をゆったりと鑑賞していただける環境を提供する。

導入経緯

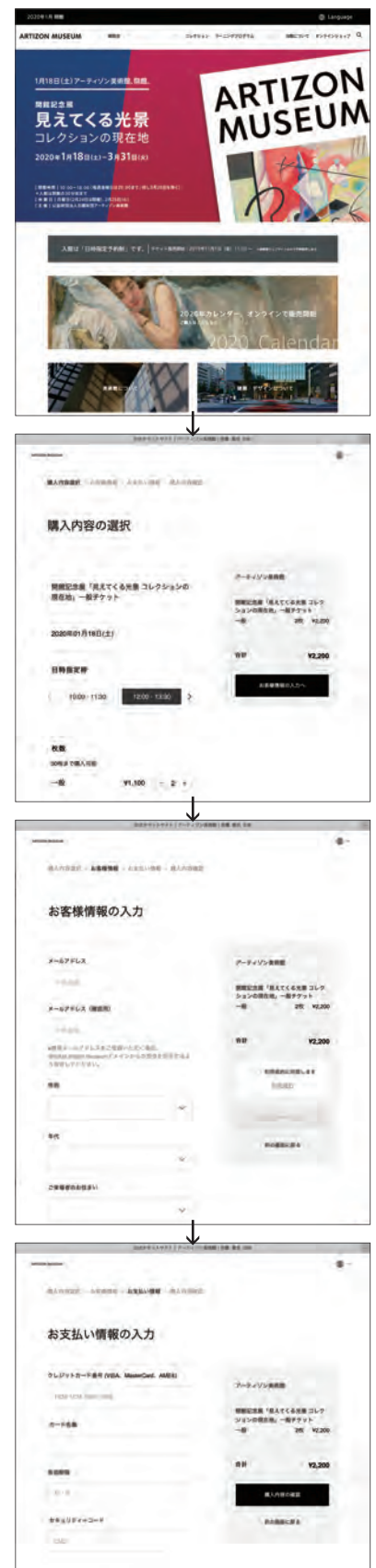
最適な鑑賞環境を提供するためのチケット販売方法について、2017年から管理課を中心に国内外のチケット販売の事例を調査し、「新美術館準備会議」で検討を開始した。導入に必要なITシステム開発や外部チケット取扱会社と連携し、アーティゾン美術館の日時指定予約制を完成した。

購入方法

1. 当館ウェブサイトアクセスし「チケット購入」タブをクリック
2. 「購入内容の選択」画面で、「チケット種別」「入場日」「日時指定時間枠」「枚数」を選択
3. 「お客様情報の入力」画面で、「メールアドレス」(必須)、「性別」「年代」「ご来場者のお住まい」を入力
4. 「利用規約」を読み、「利用規約に同意します」をクリック
5. 「お支払い情報の入力」画面で、クレジットカードの「カード番号」「カード名義」「有効期限」「セキュリティコード」を入力
6. 「購入内容の確認」画面で、「購入内容」「お客様情報」「お支払い情報」を確認
7. ご指定のメールアドレスにURLを記載したメールを送付
8. URLにアクセスすることによりQRコードを取得
9. QRコードを提示して入館

特徴

1. 展覧会開始の2カ月前から予約可能
2. 日時指定の変更は1回まで可能
3. ウェブ特別料金を設定し、当日販売料金よりも割安で購入可能
4. 次世代を支援するため、従来の中中学生以下無料に加えて、高校生・専門学校生・大学生無料
5. 指定した時間枠内であればいつでも入館でき、入館後は閉館まで時間制限なく鑑賞可能



7. プレス内覧会開催

9月18日(水) プレス施設内覧会

ミュージアムタワー京橋が2019年7月に竣工し、その低層階を占める新美術館も完成した。アーティゾン美術館の施設概要に関しプレスに実際に見て貰うため内覧会を開催した。

当日は14時から15時にて記者発表会、15時から15時40分にて施設内覧会を開催し、引き続き懇親会を行った。

記者発表会では、冒頭、石橋館長の挨拶に続き田畑クリエイティブディレクターから施設概要についてのプレゼンテーションを行った。その後、実際に3階にある危険物検知ゲートシステムを通った後で6階までエレベーターで昇り、6階から4階までの展示室を見て頂いた。その後ミュージアムカフェで質疑応答を含んだ懇談会を開催し、施設概要につき良く理解してもらった。37媒体、114名が出席。



プレス施設内覧会の様子

8. ITシステム構築

美術館ITの経緯および要点

1) 経緯

PC本格導入以前(1999年以前)のIT化は各人・各部門の必要によって推進されていた。ワードプロセッサを使用し続ける職員がいる一方、PC利用に前向きな学芸員を中心にPC-98(一太郎/Lotus 1-2-3)、Mac(クラリスワークス)、Windows(桐DB)を使うというバラバラな環境であった。これらをコンバートする形でデータベースソフトをファイルメーカーに、オフィスソフトをMS-Officeに統一した。またPC環境はMacを主とし、クリエイティブな環境を用意した。さらにファイルサーバーを用意し、情報共有と円滑な業務を可能にしてきた。この後、データベースの合理化に着手し、ブリクストーン美術館と石橋美術館で微妙に異なっていた収藏品データベース、図書データベースの項目を徐々にすり合わせ統一していった。このDB(データベース)担当者を中心とした活動が、後述するArtize(収藏品DB)とOPAC(図書DB)導入の下地となった。

2) 新美術館ITシステム設計の要点

新美術館のコンセプト「開かれた先進の美術館」をITで実現するための要点は主に三つである。

a. 開かれたデータの提供

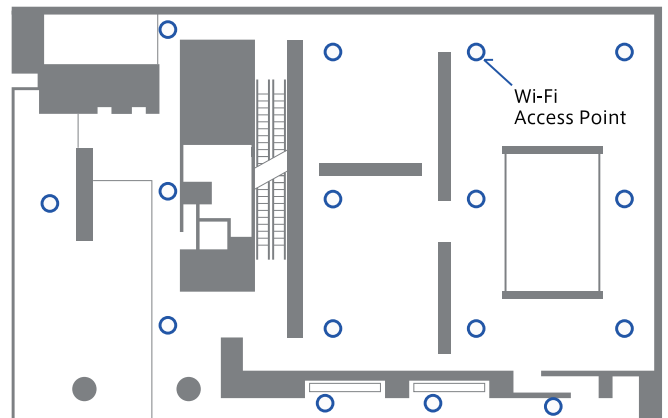
「開かれた美術館で開かれたデータの提供」を通じ来館者の知的好奇心を刺激し、新しい表現活動の模索や研究活動に寄与することを視野に入れている。そのために外部連携を前提にしたDBを構築し重要データを保護し公開可能な情報のみが来館者のスマートフォン・ホームページなどで利用されるよう設計している。

b. 先進的なIT機器やシステムの利用を可能にする

新しくユニークなIT機器を職員が利用するだけでなく、外部組織とのコラボレーションで活用することや、来館者自身の機器を利用することを想定し、インフラの設計を行っている。また各種クラウド環境やオンラインサービスを研究し、効率化とスケーラビリティを念頭においている。

c. 高度で安定したネットワーク

旧美術館での問題点を解決し、上で述べた2点を実現するために、光ファイバーによるネットワーク幹線の整備やWi-Fiの充実、セキュリティ向上、高品質なネットワーク機器による安定運用などを志向している。これらの実現のため、フロア設計時から建築会議に参加し機器設置場所や配線経路などの調整を行った。



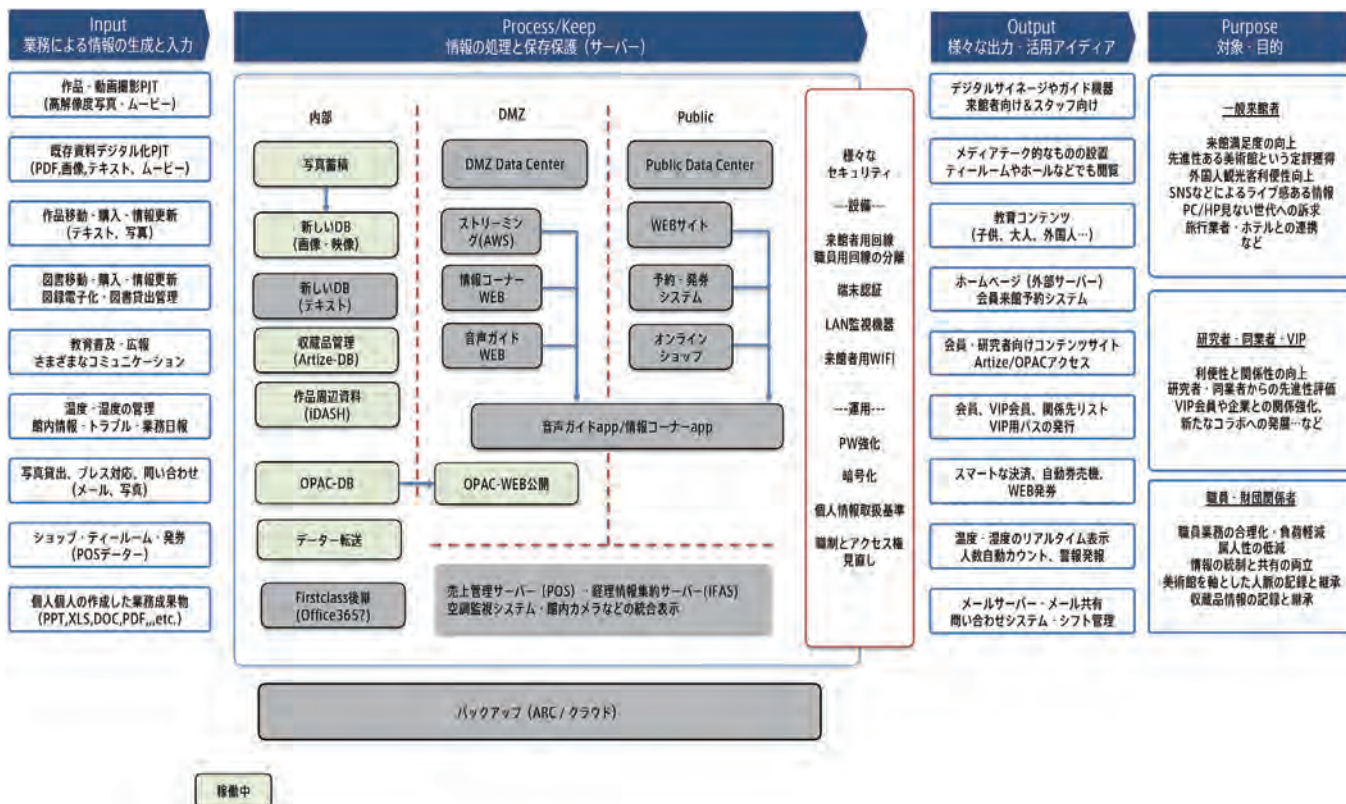
5階展示室・ロビーのWi-Fiアクセスポイント設置状況
※5階の場合、上図16台のほか、バックヤードにも4台設置
(ネットワークインフラ構築:NECプラットフォームズ)

3) 休館中の主な活動

年.月	組織	インフラ系	ソフトウェア
2015.12	第1回IT会議		
2016.10	IT基本計画承認		
2017.6		ネットワークインフラをNECに発注契約	
2018.3		7階事務室情報統合表示の仕様研究	WEB/APP外注先内定(A,N)
2018.5	開発が多岐に渡るため、各部門各担当に役割分担		石橋理事よりDBとアプリの連携の概念が示される
2018.10	IT基本計画中間報告	7階事務室情報統合表示の仕様確定	オンラインチケットシステムの研究
同月	ドメイン名取得 「artizon.museum」「artizon.jp」など		
2018.12	第48回IT会議 外注先との業務体制確認キックオフ		
2019.1		ネットワーク論理設計スタート	
2019.5		ネットワーク機器取り付け	
2019.7	建物引渡し	サーバー機器を新美術館7Fサーバー室に移設	
2019.9	事務所移転		新ホームページ運用開始
2019.10		ネットワーク設定・修正など	アプリ実地検証
2019.11～		ネットワーク設定・修正など	アプリブラッシュアップ

4) 整備・開発の全体像

2018年10月の中間報告において以下の全体像を示した。(2016年10月の初期構想と大きな差異はない)



データベースの整備と活用

「開かれた先進の美術館」の実現のため、「来館者の知的好奇心を満たす開かれたデータの提供」を志向し、休館中から現在に至るまでデータベースの開発・アップデートおよびデータ追加を続けている。

1) 経緯

先述のとおり、データベース(以下DB)は担当者によりプラットフォームと構造が様々であった。そこでプラットフォームをFilemakerに統一し、収藏品と図書のDBを整備し、FilemakerServerでホストした。

このFilemakerの後継として2009年頃から各種DBの比較を行い、2010年末からはじまったプロジェクトで収藏品に関する情報はArtize(日本写真印刷コミュニケーションズ)に移行した。このArtizeは収藏品管理に加え財産管理も行う業務基盤となっている。(非公開)

収藏品の周辺情報もDBの要望が高く、作品に紐づく情報は「雑誌記事」「新聞記事」「チラシ」「作家の手紙」など多岐に渡るため、柔軟性あるDBであるiDASH(オリジナル作成)に登録した。(非公開)

図書DBはFilemakerから2016年にOPACに移行し、2017年から公開している。

2) 新しいDB

当プロジェクトにおいては「開かれたデータの提供」を志向しているが、前出のArtizeやiDASHには内部向けの繊細な情報を含むため、そのまま外部向け(来館者向け)公開用データベースとして使用することは、情報の保護という点から適切ではないと考え、ArMA(後述)という別のDBを用意することにして、2017年から開

発を行い改訂しつつ運用している。

インフラに関しては、ArtizeおよびiDASHは職員が使用するLANに接続されており、これを外部向けに公開することはセキュリティ上の弱点となる可能性があり、これも別のネットワークを用意することにした。また、サーバー環境としては2018年からVMware上の仮想サーバーやAmazonWebServiceを利用し、スケーラビリティを確保している。

一方、図録などで公になっている収藏品をDBでも公開対象とするか否か、完成度を優先するか情報の豊富さを優先するか、といったポリシー面での論議や美術館としての方針見極めが重要な課題である。

3) 各種DBについて

休館中もDBの導入・整備を行い、主に以下のDBを運用している。

Artize——収藏品管理の基礎となるDB。作品情報に加え財産管理情報も記録。非公開。(制作:日本写真印刷コミュニケーションズ)

iDASH——作品にまつわる各種情報(作品カード、各種媒体など)を収集。非公開。(制作:GDL)

ArTex——作品解説の文章を、作品:文章を1:nで紐づけた形で管理できる仕組み。非公開。(制作:ニューフォリア)

ArEvA——館内イベント、展覧会の情報をまとめているDB。非公開。(制作:GDL)

OPAC——収蔵図書のオンライン検索システム。公開。(制作:日本事務器)

ArMA——Artizeの作品情報を軸に、映像・画像・音声を統合し、公開可能な情報を抽出するDB。非公開。(制作:GDL)

WEBサイトの開発

1) スマートフォンへの対応

スマートフォンの普及が進み、WEBサイトを閲覧する際にもPCではなくスマートフォンを利用する人が増加している。PCでもスマホでも快適に利用できるよう、レスポンシブなデザインとした。

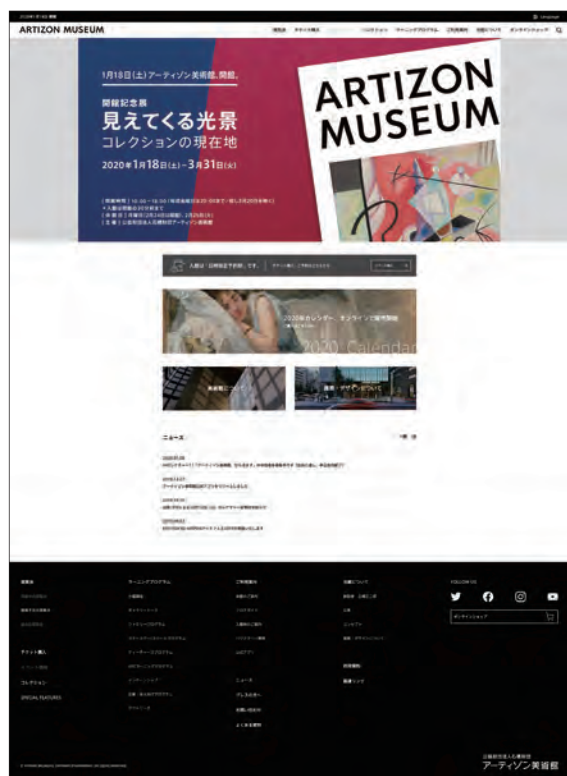
2) 新ドメイン

旧美術館のドメインbridgestone-museum.gr.jpはそのまま保有し、新たにartizon.museumというドメインを取得した。

「.museumドメイン」は美術館・博物館などのミュージアム限定ドメインであり、国内での採用例はまだ少ない。これにより館名看板やロゴのARTIZON MUSEUM表示に近い表記が可能になった。美術館職員のメールは「artizon.jp」を使用することになった。

3) チャットボット

ユーザーの利便性を向上する試みとして、チャットボットを導入した。これは利用者の質問入力に対し、予め設定した問答集とAI文脈判定で適切な答えを返すというものである。この受け答えは学習(=文言や応答の登録)が必要なため、現時点では不十分な回答もするが、今後実際に受けた質問を基に内容を充実させる予定である。



PCのトップページ



スマートフォンのトップページ



スマートフォンによるチャットボットの操作画面

石橋財団コレクション 音声ガイドアプリの開発

1) 背景

昨今、音声ガイド専用機器に代わり、スマートフォン等を利用し文字と映像で情報提供をしたり、位置検出技術を利用したガイドの試みが数多く行われている。一方、アプリの公開停止や放置、主要機能の位置検出が建物や屋外彫刻といった大まかな単位であるのも見受けられる。

当館においては、1) マスターピースと言えるコレクションを持ちデジタル化したデータを含めて保有しており、アプリの利用価値が高いことが予想され、2) 建物新設のためインフラ構築が容易、という恵まれた内部要因があり、さらには、3) 昨今のスマホ普及率上昇という外部要因も合わせ、従来型音声ガイドから位置検出技術を利用したアプリに進化させることを決断した。

2) 使用する機器の検討

位置検出方法としては、AR、GPS、Wi-Fi、iBeacon (BLE)、地磁気などがあり、様々な事情を勘案して今回はiBeaconを採用した。近接するiBeaconの電波が混線するのを防ぐ手段としては、電磁波を減衰させるシートを仮設壁などに利用した。

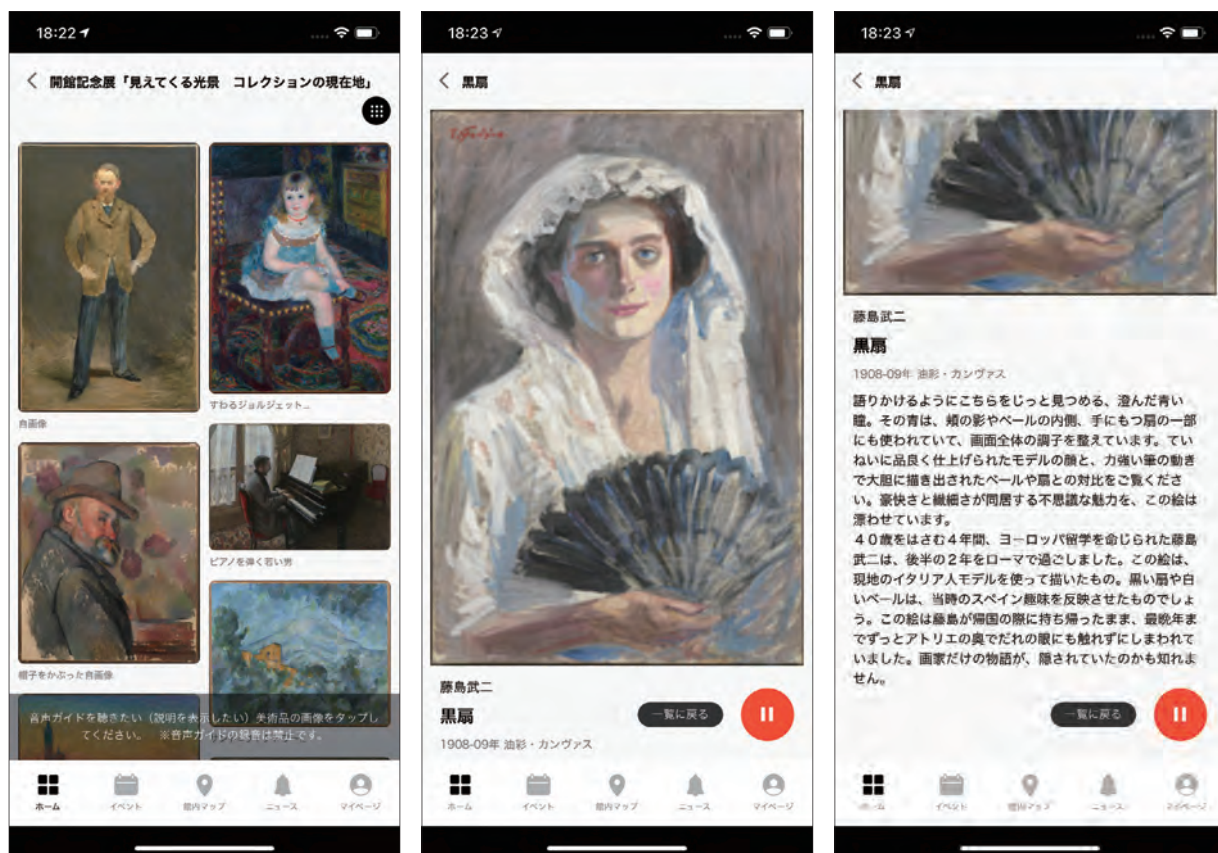
来館者が使用する端末は、貸出を検討したが、来館者が持参したiOSデバイス・Androidデバイスを使用することにした。現在、その多くの機器でiBeaconの電波を受信可能である。

3) 基本的な動作

基本的にはビーコン電波の強弱で利用者の接近・離脱を判断する。たとえばあるビーコンの電波強度が閾値を超えると、そのビーコンに紐づく作品の情報を利用者のデバイス画面上に提示する。ただし、電波は人体・空気中の水分、他の金属・電子機器に影響されやすいため、展示室を仮想的なメッシュで区切り、遠くの作品や壁の裏側の作品が不意に提示されないよう補正する工夫を行っている。

音声は、声優音声がある場合はそれを優先し、無い場合は合成音声による文章読み上げを行う。これらで使用するデータは、先述の新設データベースに格納され、オンデマンドで利用者端末に送られるため、アプリの肥大化を防いでいる。

(アプリ制作: ニューフォリア)



スマートフォンを利用した音声ガイドアプリの操作画面例

展示室内ではゲスト用Wi-Fiを通じ、イヤホンを利用して無料の音声ガイドを聴くことができ、展示室外ではテキストによる作品解説を参照可能。

その他のIT設備

1) 情報集約画面

事務室に、美術館運営に必要な「監視カメラ」「空調」「在室人数」「サイネージ稼働画面」などの情報を並列表示する6画面モニタを設置した。
(構築:東和エンジニアリング)

2) レジシステム

カフェ、ショップ、チケットのレジシステムはスマレジを採用し、特にカフェにおいてはiPad touchで注文を受けるスタイルとしてスマートなオペレーションを目指した。

3) オンライン予約

チケットはオンラインによる日時指定予約制とし、予約確認メールのQRコードを利用して入館する。また、予約枠に余地がある場合は当日券を1Fで販売する。
(チケットシステム:チームラボ)

4) ショップシステム

2階ショップとオンラインショップは在庫管理システムを新規開発し、在庫を共通化している。またオンラインショップのインターフェースも新規開発し、美術館WEBサイトとのデザインを含めた整合性を確保している。
(制作:ニューフォリア、アクシス)

5) ワークスタイルの進化

- ・ 職員のPCをノートPCに変更し、Wi-Fiの充実・速度向上とあわせ新しいワークスタイルを可能にしている。
- ・ オフィス内の固定電話を美術館代表と財団代表の2台にして、机周りをすっきりとした。着信を取る際は各人に貸与したスマホで音を聞き分けて取り、内線を使って個人に転送する。美術館と石橋財団アートリサーチセンター (ARC) に於いては内線での通話と転送が可能となっている(今迄はARCの一部では携帯が不通であったが、今回の対応により通話可能となった)。

(電話内線システム:NECプラットフォームズ)

- ・ 従来、firstclassで行っていた会議室予約を、Outlookの予定表と紐付けた会議室予約システムに変更した。一部を除く、各会議室の前に、iPadを設置し、「空室」「使用中」などのステータスと予約がある場合は、予約者名が分かるようになっている。Outlookの予定表と紐付けることで、会議室の予約のためだけに別のシステムを立ち上げる必要がなくなったため、利便性は向上した。
(SMARTROOMS:内田洋行)

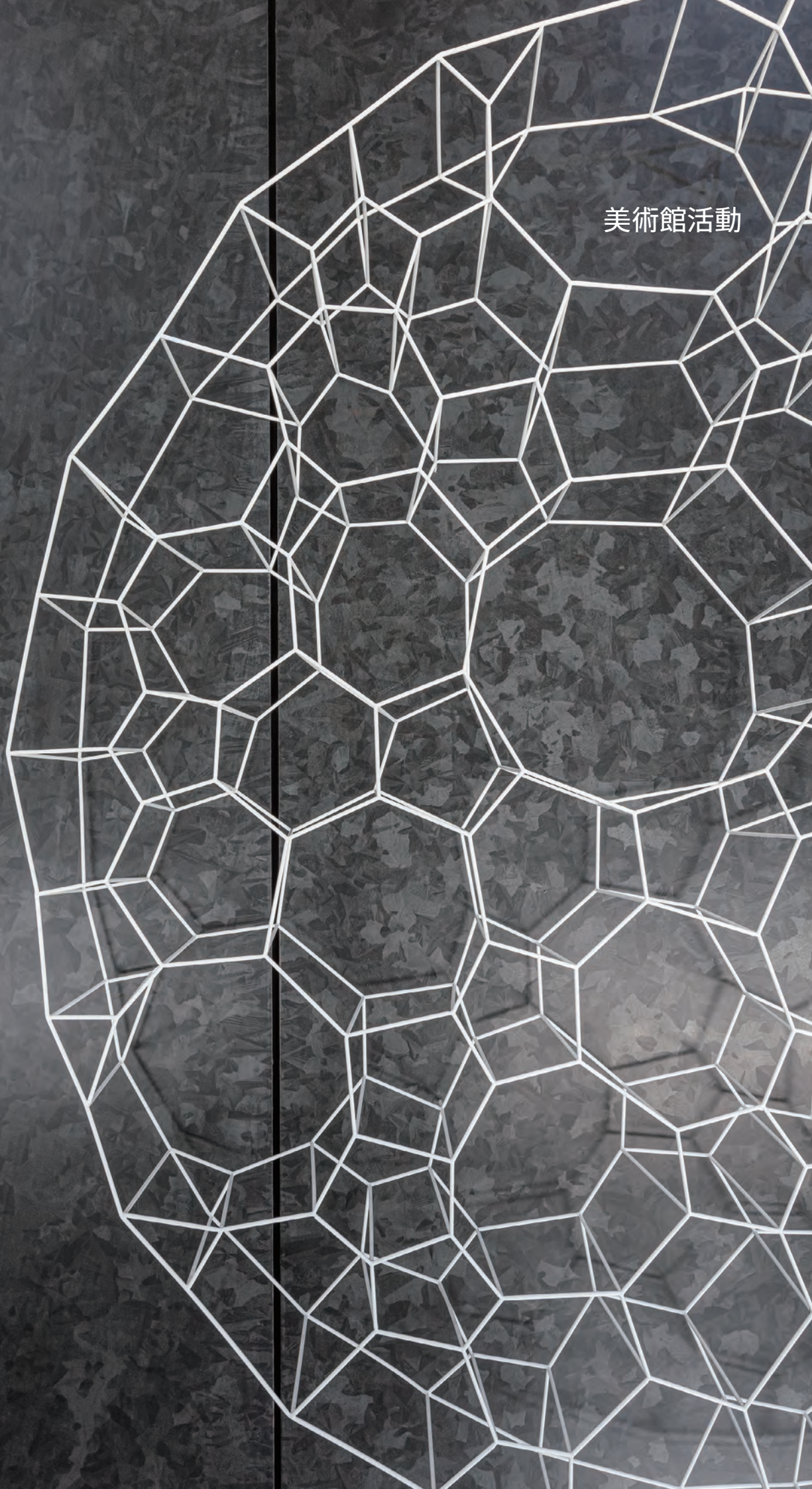


事務所に設置された情報集約モニタ



オンライン予約サイト「購入内容の選択」のトップ画面

美術館活動



1. 新収蔵作品 | New Acquisitions

石橋財団コレクションは前身のブリヂストン美術館の代名詞であった印象派や日本近代洋画をより充実させるとともに、抽象画を中心とした20世紀美術、現代美術、日本の近世美術、そして芸術家たちの肖像写真など、コレクションの地平を広げている。

2019年はクレーの作品群や印象派の女性画家・ブラックモン、ザオ・ウーキーの初期作品、青木繁のスケッチ、坂本繁二郎や藤島武二の代表作、コールダーやスミス、マン・レイなどの立体作品を収集し、コレクションの充実につとめた。

2019年新収蔵作品数: 64点

石橋財団コレクション総数: 2,776点、他に芸術家肖像写真コレクション: 1,175点

(2019年12月末現在)

In addition to enhancing the collection of Impressionism and modern Japanese Western-style paintings that characterized the former Bridgestone Museum of Art, we have expanded the horizons of the Ishibashi Foundation Collection to encompass mainly abstract twentieth century art, contemporary art, early-modern Japanese art, and portrait photographs of artists.

Additions to the collection in 2019 included our Paul Klee collection, works by the female Impressionist artist Marie Bracquemond, early works by Zao Wou-Ki, sketches by Aoki Shigeru, representative works of Sakamoto Hanjiro and Fujishima Takeji, and three-dimensional works by artists such as Alexander Calder, David Smith, and Man Ray.

Works added to the collection in 2019: 64 pieces
Total number of works in that Ishibashi Foundation Collection: 2,776 pieces
Collection of portrait photographs of artists: 1,175 pieces (not included above)

(As of December 2019)

絵画 | Painting

フアン・グリス
Juan GRIS

1887-1927

新聞と開かれた本

1913-14年
油彩・カンヴァス
65.0 × 50.0 cm
外洋286

Journal and Opened Book

1913-14
Oil on canvas
65.0 × 50.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE

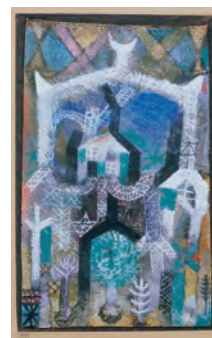
1879-1940

庭園の家

1919年
油彩、グワッシュ・カンヴァス
28.3 × 17.8 cm
外洋288

Garden Houses

1919
Oil and gouache on canvas
28.3 × 17.8 cm



パウル・クレー
Paul KLEE

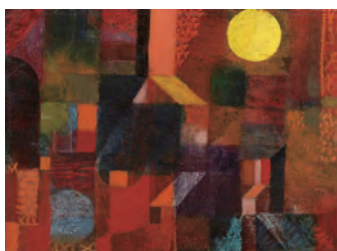
1879-1940

抽象的な建築

1915年
油彩・厚紙
24.1 × 34.3 cm
外洋287

Abstract Architecture

1915
Oil on cardboard
24.1 × 34.3 cm



パウル・クレー
Paul KLEE

1879-1940

チューリップ

1919年
油彩・厚紙に貼られた紙
27.3 × 22.2 cm
外洋289

Tulips

1919
Oil on paper mounted on cardboard
27.3 × 22.2 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

ストロベリーハウスの建築工事
1921年
油彩・厚紙
39.3 × 49.5 cm
外洋290

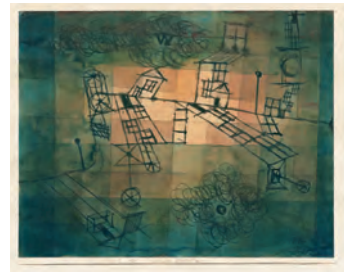
Construction Site for the
Strawberry House
1921
Oil on cardboard
39.3 × 49.5 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

家の投影
1923年
水彩、インク・厚紙に貼られた紙
21.6 × 27.8 cm
外洋294

House Projection
1923
Watercolor and ink on paper
mounted on cardboard
21.6 × 27.8 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

少女たちのおののき
1923年
水彩、インク・厚紙に貼られた紙
30.6 × 46.0 cm
外洋291

Girlish Shaking
1923
Watercolor and ink on paper
mounted on cardboard
30.6 × 46.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

庭の幻影
1925年
油彩・木枠に貼られた厚紙
24.0 × 30.0 cm
外洋295

Garden Vision
1925
Oil on cardboard mounted on
wooden strainer
24.0 × 30.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

数学的なヴィジョン
1923年
油彩、水彩・厚紙に貼られた紙
52.0 × 32.5 cm
外洋292

Mathematical Vision
1923
Oil and watercolor on paper
mounted on cardboard
52.0 × 32.5 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

ポットに咲く庭
1926年
油彩・木枠に貼られた厚紙
36.0 × 51.0 cm
外洋296

Garden in Pots
1926
Oil on cardboard mounted on
wooden strainer
36.0 × 51.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

南にある山村
1923年
油彩・厚紙
36.5 × 51.8 cm
外洋293

Mountain Village in the
South
1923
Oil on cardboard
36.5 × 51.8 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

守護者のまなざし
1926年
インク、水彩・厚紙に貼られた紙
30.0 × 23.4 cm
外洋297

The Gaze of a Protector
1926
Ink and watercolor on paper
mounted on cardboard
30.0 × 23.4 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

寓意的な形象(衰退)
1927年
油彩・木枠に貼られた厚紙
47.0 × 43.0 cm
外洋298

Allegorical Figure (Fading)
1927
Oil on cardboard mounted on
wooden strainer
47.0 × 43.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

水の中の家
1930年
油彩・厚紙に貼られたカンヴァス
11.9 × 23.8 cm
外洋302

House in the Water
1930
Oil on canvas mounted on
cardboard
11.9 × 23.8 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

宙飛ぶ竜の到着
1927年
油彩・カンヴァス
36.5 × 42.5 cm
外洋299

Arrival of the Aerial Dragon
1927
Oil on canvas
36.5 × 42.5 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

守護者
1932年
水彩、石膏・紙
48.0 × 31.0 cm
外洋303

Protectress
1932
Watercolor and plaster on paper
48.0 × 31.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

負け試合
1928年
油彩・厚紙に貼られ石膏を下塗りした
カンヴァス
33.0 × 30.5 cm
外洋300

Lost Game
1928
Oil on canvas primed with plaster
mounted on cardboard
33.0 × 30.5 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

対位法
1933年
水彩、石膏・カンヴァス
24.8 × 76.2 cm
外洋304

Counterpoint
1933
Watercolor and plaster on canvas
24.8 × 76.2 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

羊飼い
1929年
油彩・合板に貼られたカンヴァス
49.8 × 67.0 cm
外洋301

The Shepherd
1929
Oil on canvas mounted on plywood
49.8 × 67.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

踏切警手の庭
1934年
パステル・紙に貼られたカンヴァス
29.5 × 55.0 cm
外洋305

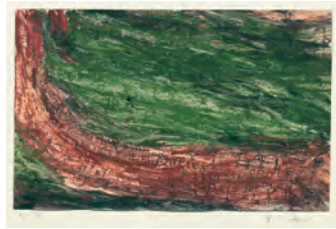
Level-Crossing Keeper's
Garden
1934
Pastel on canvas mounted on
paper
29.5 × 55.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

大規模な移住
1934年
グワッシュ・紙
21.0 × 32.0 cm
外洋306

Large Migration
1934
Gouache on paper
21.0 × 32.0 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

教師
1939年
水彩・油彩・綿布
34.3 × 23.5 cm
外洋310

Teacher
1939
Watercolor and oil on cotton
34.3 × 23.5 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

歩くマネキン
1937年
パステル・厚紙に貼られた綿布
47.0 × 31.1 cm
外洋307

Walking Mannequin
1937
Pastel on cotton mounted on
cardboard
47.0 × 31.1 cm



マリー・ブラックモン
Mary BRACQUEMOND
1841-1916

セーヴルのテラスにて
1880年
油彩・カンヴァス
56.8 × 64.5 cm
外洋311

On the Terrace at Sèvres
1880
Oil on canvas
56.8 × 64.5 cm



パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

重さと軽さ
1937年
テンペラ・紙
41.0 × 46.5 cm
外洋308

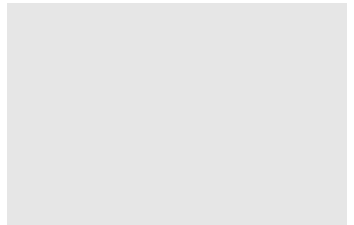
Heavy or Light Weights
1937
Tempera on paper
41.0 × 46.5 cm



ザオ・ウーキー
ZAO Wou-Ki
1921-2013

水に沈んだ都市
1954年
油彩・カンヴァス
59.5 × 73.0 cm
外洋312

Sunken City / Ville engloutie
1954
Oil on canvas
59.5 × 73.0 cm



© 2020 by ProLitteris, Zurich & JASPAR, Tokyo
C3157

パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

谷間の花
1938年
水彩・板に貼られた綿布
42.5 × 51.0 cm
外洋309

Flower in a Valley
1938
Watercolor on cotton mounted on
board
42.5 × 51.0 cm



ジャン・メッツァンジェ
Jean METZINGER
1883-1956

円卓上の静物
1916年
油彩・カンヴァス
82.2 × 63.2 cm
外洋313

Still Life with Pedestal Table /
Nature Morte au guéridon
1916
Oil on canvas
82.2 × 63.2 cm



ジョアン・ミロ
Joan MIRÓ

1893-1983

絵画

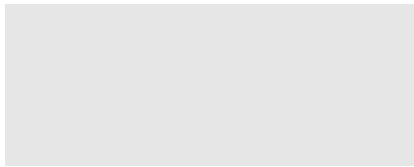
1952年

油彩・カンヴァス
73.7 × 186.0 cm
外洋314

Painting / Peinture

1952

Oil on canvas
73.7 × 186.0 cm



© Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2020
C3157

青木 繁
AOKI Shigeru

1882-1911

伎楽面(表)/舞楽面(裏)

1900-02年頃

鉛筆、淡彩・紙
28.5 × 18.9 cm
日洋650-3

Sketches of *Gigaku* Masks
(recto) / *Bugaku* Masks (verso)

c. 1900-02

Pencil and wash on paper
28.5 × 18.9 cm



中村 彝
NAKAMURA Tsune

1887-1924

静物

1919年頃

油彩・カンヴァス
46.5 × 48.5 cm
日洋649

Still Life

c.1919

Oil on canvas
46.5 × 48.5 cm



青木 繁
AOKI Shigeru

1882-1911

舞楽面

1900-02年頃

鉛筆、淡彩・紙
19.0 × 29.2 cm
日洋650-4

Sketches of *Bugaku* Masks

c. 1900-02

Pencil and wash on paper
19.0 × 29.2 cm



青木 繁
AOKI Shigeru

1882-1911

伎楽面

1900-02年頃

鉛筆、淡彩・紙
28.6 × 19.0 cm
日洋650-1

Sketches of *Gigaku* Masks

c. 1900-02

Pencil and wash on paper
28.6 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru

1882-1911

舞楽面

1900-02年頃

鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 18.9 cm
日洋650-5

Sketches of *Bugaku* Masks

c. 1900-02

Pencil and wash on paper
29.2 × 18.9 cm



青木 繁
AOKI Shigeru

1882-1911

舞楽面(表)/伎楽面(裏)

1900-02年頃

鉛筆、淡彩・紙
28.6 × 19.0 cm
日洋650-2

Sketches of *Bugaku* Masks
(recto) / *Gigaku* Masks (verso)

c. 1900-02

Pencil and wash on paper
28.6 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru

1882-1911

舞楽面

1900-02年頃

鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 18.7 cm
日洋650-6

Sketches of *Bugaku* Masks

c. 1900-02

Pencil and wash on paper
29.2 × 18.7 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

舞楽面(表)/舞楽面(裏)

1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
18.8 × 28.8 cm / 28.8 × 18.8 cm
日洋650-7

Sketches of *Bugaku* Masks
(recto and verso)

c. 1900-02
Pencil and wash on paper
18.8 × 28.8 cm / 28.8 × 18.8 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

舞楽面

1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.2 cm
日洋650-11

Sketches of *Bugaku* Masks

c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.2 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

舞楽面

1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.1 cm
日洋650-8

Sketches of *Bugaku* Masks

c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.1 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

舞楽面

1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.1 × 19.1 cm
日洋650-12

Sketches of *Bugaku* Masks

c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.1 × 19.1 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

舞楽面等

1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.0 cm
日洋650-9

Sketches of *Bugaku* Masks
and others

c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

舞楽面(表)/能面(裏)

1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
28.6 × 19.0 cm / 19.0 × 28.6 cm
日洋650-13

Sketches of *Bugaku* Masks
(recto) / *Noh* Masks (verso)

c. 1900-02
Pencil and wash on paper
28.6 × 19.0 cm / 19.0 × 28.6 cm



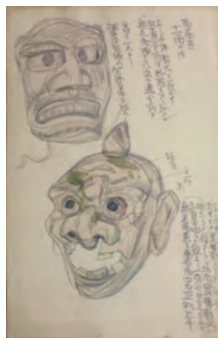
青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

舞楽面

1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.0 cm
日洋650-10

Sketches of *Bugaku* Masks

c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面(表)/舞楽面(裏)

1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
19.0 × 28.6 cm / 28.6 × 19.0 cm
日洋650-14

Sketches of *Noh* Masks
(recto) / *Bugaku* Mask (verso)

c. 1900-02
Pencil and wash on paper
19.0 × 28.6 cm / 28.6 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

行道面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.0 cm
日洋650-15

Sketches of *Gyodo* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.1 × 19.0 cm
日洋650-19

Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.1 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

行道面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.1 × 18.9 cm
日洋650-16

Sketches of *Gyodo* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.1 × 18.9 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
28.6 × 19.0 cm
日洋650-20

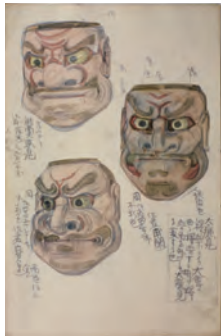
Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
28.6 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.0 cm
日洋650-17

Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.0 cm
日洋650-21

Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.0 cm
日洋650-18

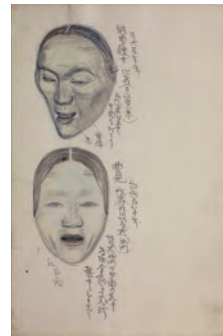
Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
28.6 × 19.0 cm
日洋650-22

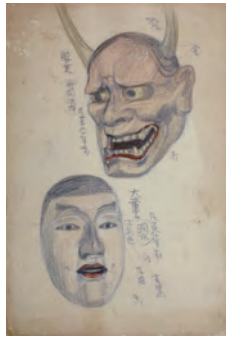
Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
28.6 × 19.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
28.6 × 19.0 cm
日洋650-23

Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
28.6 × 19.0 cm



藤島武二
FUJISHIMA Takeji
1867-1943

東洋振り
1924年
油彩・カンヴァス
63.7 × 44.0 cm
日洋652

Orientalism
1924
Oil on canvas
63.7 × 44.0 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
28.5 × 19.0 cm
日洋650-24

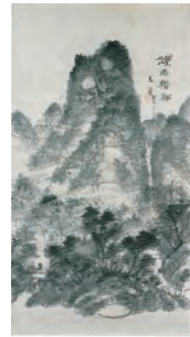
Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
28.5 × 19.0 cm



浦上玉堂
URAGAMI Gyokudo
1745-1820

煙雨模糊
文化14年(1817)
紙本墨画
112.6 × 61.8 cm
日書123

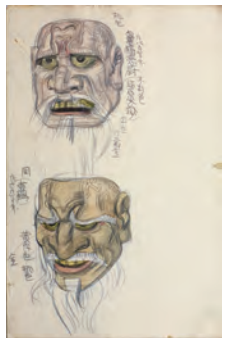
Misty Landscape
1817
Sumi on paper
112.6 × 61.8 cm



青木 繁
AOKI Shigeru
1882-1911

能面
1900-02年頃
鉛筆、淡彩・紙
29.2 × 19.0 cm
日洋650-25

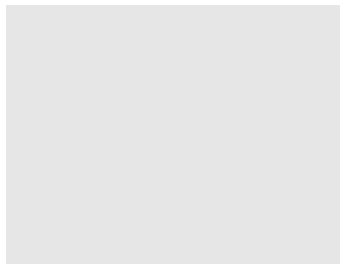
Sketches of *Noh* Masks
c. 1900-02
Pencil and wash on paper
29.2 × 19.0 cm



坂本繁二郎
SAKAMOTO Hanjiro
1882-1969

幽光
1969年
油彩・カンヴァス
31.7 × 41.0 cm
日洋651

Dim Light
1969
Oil on canvas
31.7 × 41.0 cm



立体 | Sculpture

アレクサンダー・コールドー Alexander CALDER

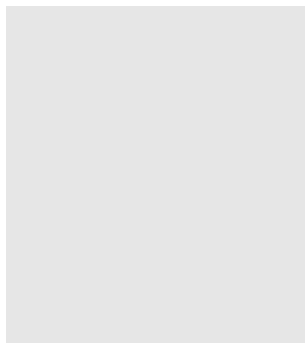
1898-1976

単眼鏡

1947年
金属の板に彩色
高さ89.5 cm 幅81.3 cm
奥行き51.4 cm
外彫109

Monocle

1947
Sheet metal and paint
H. 89.5 cm W. 81.3 cm D. 51.4 cm



© 2020 Calder Foundation, New York / Artists Rights Society (ARS), New York / JASPAR, Tokyo C3157

安田 侃 YASUDA Kan

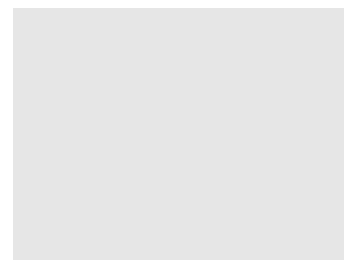
1945-

天秘

2015年
ホワイトブロンズ
高さ60.0 cm 長径280.0 cm
短径230.0 cm
日彫22

Secret of the Sky / TENPI

2015
White Bronze
H. 60.0 cm W. 280.0 cm
D. 230.0 cm



デイヴィッド・スミス David SMITH

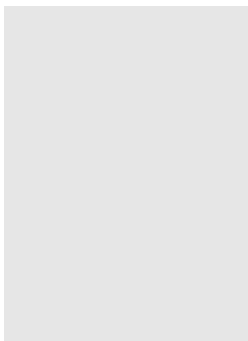
1906-1965

8月の大鴉

1960年8月11日
彩色されたスチール
高さ89.5 cm 幅54.6 cm
奥行き47.6 cm
外彫110

August Raven

August 11, 1960
Painted steel
H. 89.5 cm W. 54.6 cm D. 47.6 cm



© David Smith / VAGA at ARS, NY / JASPAR, Tokyo, 2020 C3157

マルセル・デュシャン Marcel DUCHAMP

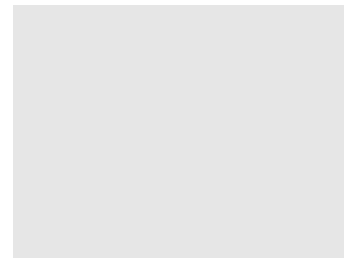
1887-1968

「マルセル・デュシャンあるいは
ローズ・セラヴィの、または、
による(トランクの箱)」シリーズB

1952年、1946年(鉛筆素描)
68点のミニチュア版レプリカ、鉛筆による
素描、厚紙ケース、革製トランク
箱: 39.0 × 35.0 × 8.0 cm
素描: 17.1 × 18.4 cm
雑554

From or by Marcel Duchamp or Rose Sélavy [Box in a Valise], Series B

1952, 1946 (pencil drawing)
Miniature replicas and reproductions
of 68 artworks and one original
pencil drawing by Marcel Duchamp
housed in a cardboard box with
a wooden armature, all enclosed
within a leather valise with lock and
key
Box: 39.0 × 35.0 × 8.0 cm
Original drawing: 17.1 × 18.4 cm



© Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2020 C3157

マン・レイ Man RAY

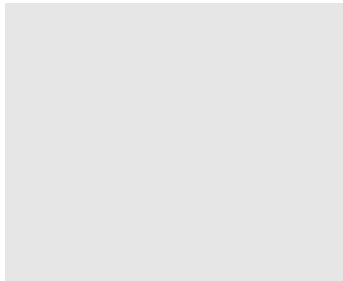
1890-1976

アストロラーベ(天体観測器)

1957年考案(1964年までに再制作)
木製の台座、真鍮、銅、彩色された
スチール、拡大鏡
高さ67.5 cm 幅67.5 cm 奥行き20.0 cm
外彫111

Astrolabe

Conceived in 1957,
assembled by 1964
Brass, copper, painted steel and
magnifying glass on a wooden base
H. 67.5cm W. 67.5cm D. 20.0 cm



© MAN RAY 2015 TRUST / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2020 C3157

安田 侃 YASUDA Kan

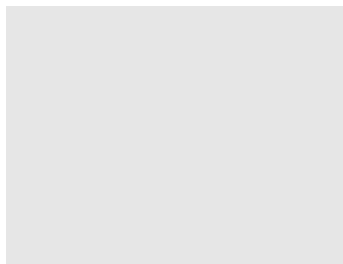
1945-

相響

2014年
ホワイトブロンズ
高さ123.0 cm 長径195.0 cm
短径140.0 cm
日彫21

The Echoes / SOKYO

2014
White Bronze
H. 123.0 cm W. 195.0 cm
D. 140.0 cm



2. 教育普及—アーティストズ美術館 プレオープンプログラム

2019年7月にミュージアムタワー京橋およびアーティストズ美術館が竣工後、IPM清掃や細部の工事、設備機器の整備を経て、9月18日にプレス発表会を行い、報道関係者に展示室などの施設を公開した。11月初頭からの作品展示作業が始まるまでの約40日間を活用し、以下の4つのプログラムを実施した。目的は、第一に新美術館への期待感を広く醸成し、開館後の利用へとつなげること、第二に新しい設備の運用を実地に確認することである。多様な参加者を迎えられるように工夫し、7月1日からウェブサイトとチラシ配布による広報を開始した。

見学ツアー「ひらけ、アーティストズ美術館」

展示作品や造作物がまったくない状態の展示室などを公開するプログラム。一般を対象に参加者を募ったが、従来からのプリチン美術館ファンで、再開を心待ちにされている方が多く、新しい美術館への期待と興味の深さが窺えた。30分のオリエンテーション、40分の館内ツアー、20分で質疑応答と開館記念展紹介を行った。様々なご質問、ご意見、お問い合わせが寄せられ、館運営のための材料を得ることもつながった。

2019年10月6日(日) 10:30-12:00

参加者:56人

10月14日(月・祝) 10:30-12:00

参加者:48人

10月20日(日) 10:30-12:00

参加者:56人



レクチャー「はじめまして、新しい仲間たち」

2015年5月からの休館中に収集した作品のうち、代表的なもので開館記念展に出品予定の5作品を取り上げた。担当学芸員5人が各回1点ずつを3階レクチャールームで、画像を用いて60分で紹介。一般向けに参加者を募集し、土曜講座ファンをはじめ、熱心な美術愛好家の応募があった。応募受付から4週間で定員に達し、関心の高さが感じられた。従来のプリチストン美術館コレクションに加わった厚みを知っていただく好機となる。

2019年9月28日(土) 13:00-14:00

「ベルト・モリゾ《バルコニーの女と子ども》:近代都市パリの新しい女性像」

新畑泰秀

参加者:64人

10月5日(土) 13:00-14:00

「《洛中洛外図屏風》:17世紀の京のようす」

平間理香

参加者:57人

10月19日(土) 10:30-11:30

「メアリー・カサット《日光浴(浴後)》:母と子の親密な風景」

賀川恭子

参加者:41人

※台風19号の影響を考慮し、10月12日(土)から延期して開催

10月19日(土) 13:00-14:00

「アルベルト・ジャコメッティ《矢内原》:終わりのないデッサン」

島本英明

参加者:56人

10月26日(土) 13:00-14:00

「松本竣介《運河風景》:失われた水の都・東京と、非常時の眼」

貝塚 健

参加者:56人



ホームカミングデー「ファミリープログラムの思い出とともに」

2001年8月から2015年3月まで実施したファミリープログラムは、小学生を含む家族を対象にしたもの。主にコレクションを用いて、展示室と1階ホールでクイズやゲーム、ギャラリートーク、制作などを組み合わせたプログラムだった。連続して参加される家族も多く、スタッフ(学芸員とインターン)は各シリーズごとに工夫をこらして取り組んだ。その参加家族に呼びかけて館内ツアーを体験していただく“同窓会”。数年ぶりにお目にかかる参加者ばかりで、かつての小学生の成長ぶりに驚かされた。

2019年9月29日(日) 10:30-12:00

参加者:71人

9月29日(日)14:30-16:00

参加者:72人



スクールプログラム「来て、見て、アーティゾン美術館」

開館後のスクールプログラムへとつなげるために、小学校から大学までの団体を対象に、館内ツアーを実施した。ウェブサイトでの告知のほかに、休館前に利用していただいていた学校へ個別に広報物を郵送して周知を図った。その結果、小学校1校、高校1校、大学8校の利用があった。事前にお申込みをいただいた後に、打合せを行い、担当教諭、教官のご希望に合わせて実施時間、内容を整えてお迎えした。小学校と高校はこれまでのお付き合いが長い学校、大学ではデザイン系、あるいは博物館学関連講座の一環での来館が目立った。

2019年10月5日(土) 10:00-12:00
多摩美術大学 環境デザイン学科 32人

10月8日(火) 14:45-16:50
東京造形大学 13人

10月17日(木) 14:30-16:00
学習院大学「西洋美術史」受講生 58人

10月18日(金) 13:00-15:00
武蔵野美術大学 空間演出デザイン学科 40人

10月23日(水) 10:00-12:00
神奈川県立白山高校 美術科 40人

10月25日(金) 10:00-11:30
中央区立常盤小学校 4年生 25人

10月25日(金) 14:00-15:30
明治学院大学大学院 文学研究科 芸術学専攻 3人

10月29日(火) 14:30-17:00
多摩美術大学 環境デザイン学科 履修課題学生 20人

10月30日(水) 10:00-11:30
武蔵野美術大学 芸術文化学科 18人

10月30日(水) 13:35-14:40
共立女子大学 博物館学芸員資格科目「博物館経営論」受講生 31人



3. 教育普及—石橋財団アートリサーチセンター ラーニングプログラム

レクチャー

2017年4月から本格的に稼働している、石橋財団アートリサーチセンター(東京都町田市)での活動を引継いで実施した。レクチャー、ワークショップ、スクールプログラムである。レクチャーは、当館学芸員がすべて担当し、ワークショップはすべて外部の専門家にファシリテーターをお願いした。3年目を迎え、リピーターが増えて、町田での活動が定着しつつあるのを実感している。企画と運営は、教育普及部が担当した。

2019年3月16日(土) 14:00-15:30

「坂本繁二郎とプリチストン美術館」

伊藤絵里子

参加者：22人

5月25日(土) 14:00-15:30

「中村彝とレンブラント—自画像の魅力」

田所夏子

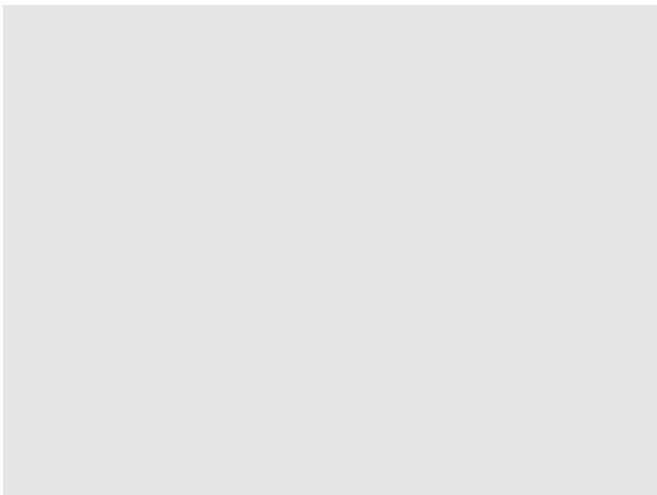
参加者：32人

7月27日(土) 14:00-15:30

「安井曾太郎とポール・セザンヌ礼賛」

貝塚健

参加者：40人



ワークショップ

「色をひらく・つかうー「私」の空間から、世界へつながる、ひろがるー」

日時：2019年2月9日(土) 10:30-16:30

講師：大嶋貴明氏(美術家、宮城県美術館学芸員)

講師に大嶋貴明氏をお迎えし、市販の93枚の調色された色紙セットを使って実施した。当日の参加者は、高校生以上15人。はじめに、ワークショップとは、講師が参加者に何かを押し付けるのではなく、皆と一緒に探していくこと。最後の結果は、皆違って構わない。むしろその違いが大きいほど上手くいったと考えていること

が示され、プログラムがスタート。参加者は、講師から出される「好きな5色を選び出し並べる」「嫌いな5色を選び出し並べる」、「93色を自分なりに秩序立てて分類し並べる」「二人ひと組となった相手と色紙を交換して色の見え方を変えてみる」「クレーやカンディンスキーの作品から色を探し出す」など、順に感覚を広げていくさまざまな課題に取り組んだ。最後に、19世紀の色をめぐる世界観と20世紀のそれとの違い、さらにはインターネット登場以後の新しい色の秩序をめぐるレクチャーがあり、6時間では収まりきらない濃密な時間を体験した。



「銅版画の魅力ードライポイント技法に親しむー」

日時:2019年4月27日(土) 10:15-16:00

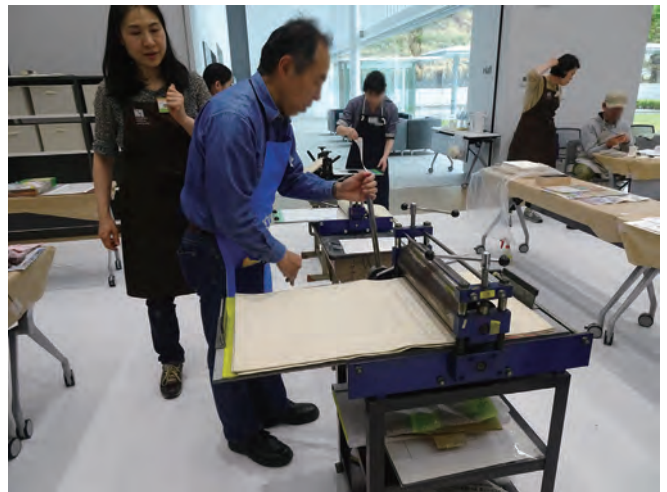
講師:馬場知子氏(版画家)

企画協力:上村牧子氏(町田市立国際版画美術館 学芸員)

渡辺利江氏(町田市立国際版画美術館 学芸員 教育普及係長)

町田市立国際版画美術館より、道具と知恵をお借りし、講師に版画家の馬場知子氏をお迎えして実施した。当日の参加者は、高校生以上9人。はじめに講師より、銅版画の技法についてデモンストレーションと白板を用いての解説があり制作へ。参加者は、事

前に準備してきた下絵を転写し、左右を反転させてカーボン紙を使って銅版に描写。ニードル、ルーレット、スクレイパー、ルーター(電動の機械)、サンドペーパーなどの道具を適宜選び手で銅版を刻んでいく。刷りは、インクを溝の中に詰めていくイメージで。インクの拭き取りは、寒冷紗、人絹をつかって優しく丁寧に、拭き取り過ぎないように。プレス機を回し、刷ってみて初めて分かる筆圧、紙の湿り、プレス圧などによる反応を確かめながら加筆して、それぞれの力作が完成した。講評ののち、最後に講師の作品(エッチング)を鑑賞し、「銅版を彫って刷る」という基本は同じでも、多様な工程、技法がある奥深い銅版画の魅力を知るひとときとなった。



「蒔絵の世界を知る・体験する」

日時：2019年6月29日(土) 14:00-17:00

講師：室瀬智弥氏(漆芸家、目白漆芸文化財研究所代表)

講師に、漆芸家で目白漆芸文化財研究所代表の室瀬智弥氏をお迎えして実施した。当日の参加者は中学生以上13人。はじめに講師より、縄文時代まで遡る漆の歴史や特徴、そしてその漆を塗った上に金粉や銀粉を蒔いて模様を表す最上級の装飾である「蒔絵(まきえ)」の技法についてを、写真や試作品、そして蒔絵筆や

粉筒などの道具に触れながら解説。続いて、当館が所蔵する漆器作品、植松包美《雛菊蒔絵螺鈿手箱写し》と《破れ網に桜花散らし蒔絵弁当箱》を担当学芸員より紹介した。後半は、いよいよ蒔絵体験。参加者は、漆の平皿に、好みの図柄を漆でワンポイント描き、金粉を蒔いた。蒔いた金粉をそっと筆で払い、キラキラとした絵が現れると歓声があがった。参加者の作品は、目白漆芸文化財研究所にて仕上げ処理(漆の硬化、金粉の定着など)を施され、およそ1カ月後にそれぞれの手元に郵送された。体験を通して蒔絵の世界を身近に感じられる貴重なひとときとなった。



「もうひとりの私—等身大の自分をつくろう—」

日時：2019年8月24日(土) 13:30-16:00

講師：関恵子氏(エドゥケーター、元小学校図工科教諭)

エドゥケーターで元小学校図工科教諭の関 恵子 氏を講師にお迎えして実施した。当日の参加者は、小学生を含む家族8組22人。子どもも大人も大きな紙に寝そべて身体の輪郭をとり、好きな顔、髪型、服、靴下や靴、持ち物などをクレパスで塗ったり、端切れ布や紙袋、色紙を貼ったりして、紙いっぱい「もうひとりの私」

を制作した。びっくりしたところ、ジャンプしたところ、遊んでいるところ、遊び疲れて倒れたところ、駆け抜けている自分、流行の「虎屋の服」(当日は、虎屋の紙袋をアレンジした服装が流行した)など。参加者は、外見や内面に思いを巡らせ工夫を凝らして、等身大の「もうひとりの私」を完成させた。「もうひとりの私」の誕生日は、2019年8月24日。将来、改めて「もうひとりの私」と出会うのも楽しい時間になるだろう。最後に、当館所蔵のマネ《自画像》や小出樞重《帽子をかぶった自画像》など全身像の自画像を紹介すると、参加者は興味深く耳を傾けていた。



スクールプログラムほか

2019年3月9日(土) 10:30-12:00

町田市生涯学習センター 市民提案型事業

講座づくり★まちチャレ【ひとはなぜ絵を描くのか?】

第4回「現地学習～ブリヂストン美術館の研究施設・アートリサーチセンターについて」

参加者:37人

3月22日(金) 13:30-15:30

女子美術大学美術館 学生ボランティア

参加者:10人



4. 教育普及—アウトリーチ

なかなか美術館を訪問することができない学校や団体、社会教育施設に対し、当館スタッフが赴いて実施するプログラム。PCを持参し画像を用いて所蔵作品を紹介するもの、制作をともなうワークショップ、大学での博物館学関連授業のサポートなど、ご希望に合わせて多岐にわたって内容を変えている。

■小学校

2019年1月21日(月) 10:30–15:15
「鑑賞学習(子ども学芸員の準備)」
千代田区立麴町小学校 6年生50人
担当:細矢芳、江藤祐子

2019年1月25日(金) 13:35–15:10
「鑑賞学習(子ども学芸員)」
千代田区立麴町小学校 1年生80人、2年生83人、6年生50人
担当:貝塚健、細矢芳、江藤祐子

2019年2月16日(土) 9:20–11:20
「スライドを使った美術館紹介(作品鑑賞)」
武蔵野市立第二小学校 6年生63人
担当:貝塚健、細矢芳

2019年3月6日(水) 9:35–10:20
「鑑賞学習(スライドを使った作品紹介)」
中央区立有馬小学校 4年生34人
担当:細矢芳

2019年3月7日(水) 9:35–10:20 / 10:40–11:25
「鑑賞学習(スライドを使った作品紹介)」
中央区立有馬小学校 4年生65人
担当:貝塚健、江藤祐子

2019年7月18日(木) 9:35–10:20 / 10:40–11:25
「アーティゾン美術館紹介」
墨田区立曳舟小学校 6年生60人
担当:細矢芳、江藤祐子

2019年10月1日(火) 10:30–11:15 / 11:20–12:05
「アーティゾン美術館紹介(子ども学芸員の準備)」
町田市立小山ヶ丘小学校 6年生120人
担当:細矢芳、江藤祐子

■大学

2019年12月3日(火) 16:40–18:10
「博物館教育論 学校と博物館2『アーティゾン美術館学芸員によるレクチャー(アウトリーチの事例)』」
女子美術大学(相模原キャンパス) 67人
担当:細矢芳

2019年12月9日(月) 16:20–17:50
「博物館教育論 学校と博物館2『アーティゾン美術館学芸員によるレクチャー(アウトリーチの事例)』」
女子美術大学(杉並キャンパス) 31人
担当:江藤祐子

■連携講座ほか

2019年6月19日(水) 14:00–15:30
「アーティゾン美術館へようこそ—西洋近代美術コレクションを中心に—」
パルテノン多摩 一般105人
主催:公益財団法人多摩市文化振興財団、石橋財団ブリヂストン美術館
担当:江藤祐子

2019年6月28日(土) 14:00–15:30
「日本人画家のパリ:藤田嗣治、佐伯祐三、岡鹿之助ほか」
パルテノン多摩 一般99人
主催:公益財団法人多摩市文化振興財団、石橋財団ブリヂストン美術館
担当:貝塚健

2019年7月28日(日) 15:00–16:00
「発見?!『なつ』の表情」
パルテノン多摩 小学生を含む家族63人
主催:公益財団法人多摩市文化振興財団、石橋財団アーティゾン美術館
担当:細矢芳

2019年9月21日(土) 14:00–16:00
「EDO TOKYO NIPPON アートフェス 2019」共同講演会 学芸員あるある第2弾「のぞいてみよう! 展覧会ができるまで」
日本工業倶楽部 一般81人
主催:出光美術館、三井記念美術館、三菱一号館美術館、東京ステーションギャラリー、アーティゾン美術館
担当:島本英明 ※5館の学芸員によるクロストーク

■その他

2019年7月13日(土) 14:00-16:00

「ブリチストン美術館からアーティゾン美術館へ」

主催:板橋グリーンカレッジOB会 文化部

会場:板橋グリーンカレッジホール

参加者:一般89人

担当:貝塚健

2019年7月24日(水) 14:00-16:00

美術講座「美術館を楽しむ」(1)「アーティゾン美術館—受け継ぐものと切り拓くもの」

主催:公益財団法人 としま未来文化財団

会場:雑司ヶ谷地域文化創造館

参加者:一般51人

担当:貝塚健

2019年11月9日(土) 12:00-17:00

「ミュージアムキッズ! 全国フェア」〈アート・サファリ〉

2019年11月10日(日) 9:00-14:00

「ミュージアムキッズ! 全国フェア」〈アート・サファリ〉

主催:こどもひかりプロジェクト

後援:兵庫県、兵庫県教育委員会、南あわじ市教育委員会、洲本市教育委員会、淡路市教育委員会、全国美術館会議、全国科学館連携協議会

会場:国立淡路青少年交流の家

参加者:幼児・低学年児童と家族89人(総来場者6,061人)

担当:細矢芳、江藤祐子

2019年12月18日(水) 18:30-20:00

芸術文化講座第3回「アーティゾン美術館ものがたり—引き継がれるものと新たな出発—」

主催:一般社団法人 京橋彩区エリアマネジメント

会場:ミュージアムタワー京橋16階 Café 16

参加者:一般59人

担当:貝塚健



小学校を対象としたアウトリーチの様子



「ミュージアムキッズ! 全国フェア」〈アート・サファリ〉の様子

5. 図書公開

石橋財団アトリサーチセンター (ARC) ライブラリーにおいて、大学生以上の学生および研究者を対象に、図書閲覧の受付を実施した。

開室期間 2019年1月～12月
開室日時 毎週木曜日 13:00-16:00
※年末年始、祝日、整理期間は休室
年館開室日数 46日

■利用者数(セミナー参加、団体利用含む)

利用者区分	人数
学芸員	3
大学教員	1
大学生・大学院生	20
その他	3
合計	27

■出納冊数

件数	29
冊数	79

■セミナー開講実績

2019年8月10日(土) 14:00-16:50
「西洋美術史分野の文献探索:作家、展覧会について調べるための参考図書」
4人

2019年8月11日(日) 14:00-16:50
「西洋美術史分野の文献探索:美術分野のデータベース、オンラインリソース」
5人

■団体利用実績

2019年6月12日(水) 14:00-17:00
学習院女子大学大学院 文化資源情報特殊研究ゼミ
2人

2019年11月25日(月) 11:30-12:30
玉川大学 博物館情報・メディア論ゼミ
8人



ライブラリーセミナーの様子



団体利用の様子

6. 新収蔵図書

■新収蔵図書

	購入	寄贈	計
和書	117	429	546
洋書	105	144	249
計	222	573	795

■下記の通り逐次刊行物の遡及入力を行った。

	タイトル数	冊数
和雑誌	535	15,241
洋雑誌	86	1,749
計	621	16,990

■総蔵書数(2019年12月末現在)

和書	19,033
洋書	6,834
計	25,867

(逐次刊行物を除く)

所蔵作品・所蔵作家に関わる稀少図書の収集に取り組んでいる。
本年の収集事例は下記の通り

- Bauhausbücher, 14 vols. Verlag Albert Langen, München, 1925-1930. (set in 17 vols.)
vol. 1: Gropius, Walter. *Internationale Architektur*. 1925. 1st edition.
vol. 1: Gropius, Walter. *Internationale Architektur*. 1927. 2nd edition.
vol. 2: Klee, Paul. *Pädagogisches Skizzenbuch*. 1925. 1st edition.
vol. 3: Meyer, Adolf. *Ein Versuchshaus des Bauhauses in Weimar*. 1925. 1st edition.
vol. 4: Schlemmer, Oskar, Moholy-Nagy, László. *Die Bühne im Bauhaus*. 1925. 1st edition.
vol. 5: Mondrian, Piet. *Neue Gestaltung. Neoplastizismus. Nieuwe Beelding*. 1925. 1st edition.
vol. 6: Doesburg, Theo van. *Grundbegriffe der Neuen Gestaltenden Kunst*. 1925. 1st edition.
vol. 7: Gropius, Walter, Moholy-Nagy, László. *Neue Arbeiten der Bauhauswerkstätten*. 1925. 1st edition.
vol. 8: Moholy-Nagy, László. *Malerei, Photographie, Film*. 1925. 1st edition.
vol. 8: Moholy-Nagy, László. *Malerei, Fotogtafie, Film*. 1927. 2nd edition.
vol. 9: Kandinsky, Wassily. *Punkt und Linie zu Fläche. Beitrag zur Analyse der Malerischen Elemente*. 1926. 1st edition.
vol. 9: Kandinsky, Wassily. *Punkt und Linie zu Fläche. Beitrag zur Analyse der Malerischen Elemente*. 1928. 2nd edition.
vol. 10: Oud, J. J. P. *Holländische Architektur*. 1926. 1st edition.
vol. 11: Malevich, Kazimir. *Die Gegenstandlose Welt*. 1927. 1st edition.
vol. 12: Gropius, Walter. *Bauhausbauten Dessau*. 1930. 1st edition.
vol. 13: Gleizes, Albert. *Kubismus*. 1928. 1st edition.
vol. 14: Moholy-Nagy, László. *Von Material zu Architektur*. 1929. 1st edition.
- Breton, André, Schwarz, Arturo. *Marcel Duchamp*. Ronny van de Velde, Antwerpen, 1991.
- Dubuffet, Jean. *Le Mirivis des naturgies*. André Martel and Jean Dubuffet, Paris, 1963.
- Gleizes, Albert, Metzinger, Jean. *Du Cubisme*. Compagnie Française des Arts Graphiques, Paris, 1947.
- Joyce, James, Brancusi, Constantin. *Tales Told of Shem and Shaun*. Black Sun, Paris, 1929.
- Ed. Kandinsky, Wassily, Franz, Marc. *Der Blaue Reiter*. R. Piper & Co., München, 1912.
- Kandinsky, Wassily. *Über das Geistige in der Kunst. Insbesondere in der Malerei*. R. Piper & Co., München, 1912.

7. 修復記録

堂本尚郎

集中する力

1958年

油彩・カンヴァス / 150.0×250.0cm

日洋626

画面カビ跡をエタノール水で除去、殺菌。亀裂浮き上がり箇所を牛膠で接着。裏面に余ったカンヴァス張りしろを銅小釘で固定。中空ポリカーボネイトの裏板を装着し、アームヒートンを取り付けた。

円山応挙

竹に狗子波に鴨図襖

江戸時代 18世紀

紙本墨画淡彩 / 169.0×92.8cm (各) / 4面表裏

日書43

解体、肌裏以外の旧裏打紙除去。剥落止め、表打ち、旧肌裏・補紙除去。新規補紙・裏打ち。下地および漆塗襲木を新調、引手は元使い。

青木木米

秋溪渡橋

江戸時代 19世紀初頭

紙本墨画淡彩 / 24.4×19.8cm / 1幅

日書55

解体、肌裏以外の旧裏打紙除去、汚れ除去、剥落止め、表打ち、肌裏除去、新規裏打ち、折れ伏せ等の処理。鉛膨張のため軸木を新調。

酒井抱一

新撰六歌仙四季草花図屏風

江戸時代 19世紀

紙本金地著色 / 108.3×380.6cm / 8曲1隻

日書107

絵具層の剥落止め。

桃井北斗

後醍醐天皇遠流図屏風

絹本着色 / 168.0×372.0cm (各) / 6曲1双

日書111

蝶番の補強。

伊年印

草花図屏風

江戸時代

紙本着色 / 109.0×290.0cm / 6曲1隻

日書117

解体、肌裏以外の旧裏打紙除去、汚れ除去、剥落止め、表打ち、肌裏除去、新規裏打ち、折れ伏せ等の処理。下地および縁、裂地を新調。

8. 作品貸出記録

Berthe Morisot, Woman Impressionist / Berthe Morisot, femme impressionniste

Musée national des beaux-arts du Québec, Québec / June 21, 2018 – September 23, 2018
The Barnes Foundation, Philadelphia / October 21, 2018 – January 14, 2019
Dallas Museum of Art, Dallas / February 24, 2019 – May 26, 2019
Musée d'Orsay, Paris / June 17, 2019 – September 22, 2019

- 1) ベルト・モリゾ《バルコニーの女と子ども》(外洋268)

「モダン美人誕生—岡田三郎助と近代のよそおい」展
ポーラ美術館 / 2018年12月8日—2019年3月17日

- 1) 岡田三郎助《婦人像》(日洋60)

「洋画と日本画」展

石橋正二郎記念館 / 2019年1月4日—2019年3月31日

- 1) 吉田博《風景(ダーズリン)》(日洋249)
- 2) 青木繁《月下滞船図》(日洋105)
- 3) 富田溪仙《昇鯉図》(日書27)
- 4) 近藤浩一路《暁月》(日書30)

「久留米市美術館のコレクションing きょうも活動中」展
久留米市美術館 / 2019年1月19日—2019年3月24日

- 1) 黒田清輝《鉄砲百合》(日洋9)
- 2) 黒田清輝《杣》(日洋10)
- 3) 藤島武二《五剣山の日の出》(日洋49)
- 4) 藤島武二《奈良風景》(日洋52)
- 5) 岡田三郎助《水浴の前》(日洋63)
- 6) 和田英作《チューリップ》(日洋65)
- 7) 吉田博《奔流》(日洋82)
- 8) 青木繁《天平時代》(日洋91)
- 9) 青木繁《海》(日洋94)
- 10) 青木繁《光明皇后》(日洋102)
- 11) 坂本繁二郎《少女》(日洋111)
- 12) 辻永《春(パリ郊外)》(日洋117)
- 13) 藤田嗣治《カルポーの公園》(日洋133)
- 14) 児島善三郎《トレド風景》(日洋159)
- 15) 坂本繁二郎《静物》(日洋194)
- 16) 和田三造《海》(日洋254)
- 17) 梅原龍三郎《桜島》(日洋274)
- 18) 海老原喜之助《青年像》(日洋286)
- 19) 松田諦晶《自画像》(日洋312)
- 20) 松田諦晶《野菜果物》(日洋313)

- 21) 松田諦晶《草花》(日洋314)
- 22) 井上三綱《ドン・キホーテ》(日洋333)
- 23) 井上三綱《殷殷と鐘がなる》(日洋337)
- 24) 伊東静尾《道》(日洋340)
- 25) 伊東静尾《土(A)》(日洋341)
- 26) 松田諦晶《伯耆大山》(日洋344)
- 27) 高田力蔵《アテネのエレクトイオン》(日洋385)
- 28) 佐藤敬《作品》(日洋490)
- 29) 坂宗一《脱穀》(日洋509)
- 30) 山村秀一《船溜り》(日洋513)
- 31) 山村秀一《さば》(日洋514)
- 32) 内野秀美《羨の花》(日洋516)
- 33) 野見山暁治《風の便り》(日洋520)
- 34) 古賀春江《曲糸につく》(日洋546)
- 35) 松本英一郎《退屈な風景 茶畑》(日洋553)
- 36) 松田諦晶《コンポジション》(日洋572)
- 37) 古賀春江《二階より》(日洋593)
- 38) 豊福知徳《透過する立像(白)》(日彫19)
- 39) 富田溪仙《梢白鷺》(日書26)
- 40) 近藤浩一路《暁港(島原港)》(日書29)
- 41) 堅山南風《双鯉》(日書34)
- 42) 堅山南風《鯉》(日書35)
- 43) 富田溪仙《聖人観瀑図》(日書83)
- 44) 豊田勝秋《葡萄文レリーフ》(雑44)
- 45) 豊田勝秋《花文レリーフ》(雑45)
- 46) 豊田勝秋《鑄銅花さし》(雑47)

「没後50年 坂本繁二郎展」

久留米市美術館 / 2019年4月6日—2019年6月9日
練馬区美術館 / 2019年7月14日—2019年9月16日

- 1) 坂本繁二郎《少女》(日洋111)
- 2) 坂本繁二郎《自画鏡像》(日洋113)
- 3) 坂本繁二郎《放牧三馬》(日洋114)
- 4) 坂本繁二郎《静物》(日洋194)
- 5) 坂本繁二郎《帽子を持てる女》(日洋195)
- 6) 坂本繁二郎《魚を持ってきた海女》(日洋204)
- 7) 坂本繁二郎《柿》(日洋210)
- 8) 坂本繁二郎《林檎 蜜柑 柿》(日洋216)
- 9) 坂本繁二郎《自像》(日洋300)
- 10) 坂本繁二郎《牛》(日洋301)
- 11) 坂本繁二郎《水繩山風景》(日洋536)
- 12) 坂本繁二郎《茄子と梨》(日洋565)
- 13) 坂本繁二郎《能面と鼓の胴》(日洋568)
- 14) 坂本繁二郎《老婆》(日洋573)
- 15) 坂本繁二郎《窓の馬》(寄託作品)
- 16) 坂本繁二郎《鶏卵》(寄託作品)
- 17) 坂本繁二郎《香炉》(寄託作品)
- 18) 青木繁《海景(布良の海)》(日洋100)
- 19) 青木繁《車中風景》(日洋496)

-
- 20) 青木繁《神塞妙義》(日洋507)
 - 21) 青木繁《上京途中スケッチ》(日洋586)
-

「石橋正二郎と坂本繁二郎」展

石橋正二郎記念館 / 2019年4月6日—2019年6月9日

- 1) 坂本繁二郎《あらしの海》(日洋110)
 - 2) 坂本繁二郎《肉弾三勇士》(日洋115)
 - 3) 坂本繁二郎《水より上る馬》(日洋449)
 - 4) 今里龍生《坂本繁二郎像》(日彫4)
-

「ジャコモッティとI」展

国立国際美術館 / 2019年5月25日—2019年8月4日

- 1) アルベルト・ジャコモッティ《アトリエ風景》(外洋204)
 - 2) アルベルト・ジャコモッティ《歩く人(表)／アトリエ風景(裏)》(外洋205)
 - 3) アルベルト・ジャコモッティ《アネット》(外洋206)
-

「松方コレクション展」

国立西洋美術館 / 2019年6月11日—2019年9月23日

- 1) アルフレッド・シスレー《サン＝マメス六月の朝》(外洋26)
 - 2) エドゥアール・マネ《自画像》(外洋121)
-

「石橋正二郎とプリヂストン美術館」展

石橋正二郎記念館 / 2019年6月20日—2019年11月10日

- 1) 黒田清輝《鉄砲百合》(日洋9)
 - 2) 藤島武二《奈良風景》(日洋52)
 - 3) 青木繁《天平時代》(日洋91)
 - 4) 青木繁《海》(日洋94)
-

「生誕120年・没後100年 関根正二展」

福島県立美術館 / 2019年9月14日—2019年11月10日

- 1) 関根正二《子供》(日洋178)
-

「石橋文化センターを訪れた作家たち」展

石橋正二郎記念館 / 2019年11月16日—2020年3月22日

- 1) 坂本繁二郎《少女》(日洋111)
 - 2) 清水多嘉示《衣裳室》(日洋472)
 - 3) 高田力蔵《エトルタの断崖》(日洋182)
 - 4) 海老原喜之助《青年像》(日洋286)
-

9. 調査研究(個人)

■寄稿

貝塚 健

「部会報告(美術館運営制度研究部会)」『zenbi』15号、全国美術館会議、2019年1月31日、p. 28

「藤島武二と仏教—真珠と海」『館報(石橋財団ブリヂストン美術館)』67号(2018年度)、2019年3月、pp. 57-72

「永遠の、《子供》と関根正二」『新美術新聞』1514号、美術年鑑社、2019年9月11日、p. 2

「アーティゾン美術館が来月1月にオープン」『公明新聞』2019年12月25日付、第5面

賀川恭子

「ポール・シニャック《コンカルノー港》」『館報(石橋財団ブリヂストン美術館)』67号(2018年度)、2019年、pp. 73-79

笠原美智子

「イクムラレイコの少女」『イクムラレイコ 土と星 Our Planet』展図録、国立新美術館、求龍堂、2019年、pp. 118-125

「蔵真墨の釜山」蔵真墨写真展 パンモゴッソヨ?」リーフレット、ふげん社、2019年、n.p.

「タワン・ワトゥヤのミス・コン」*Tawan Wattuya, Queen, nichido contemporary art, Tokyo, Taipei, 2019, n.p.*

「岡田裕子の愛と孤独、そして笑い」岡田裕子『Double Future—エンゲージド・ボディ/俺の産んだ子』ミヅマアートギャラリー、求龍堂、2019年、pp. 64-71

黒澤美子

「石橋財団アトリサーチセンターライブラリーからの報告—ライブラリーセミナー紹介と美術系オンラインリソースの動向」『現代の図書館』57巻3号、日本図書館協会、2019年11月、pp. 146-152

新畑泰秀

(監修・執筆)「特集ポール・セザンヌ—絵画の父、荘厳と明澄」『花美術館』Vol.64、株式会社花美術館、2019年2月10日、pp. 3-53

平間理香

「オープンを目前に」『博物館研究』Vol. 55 No. 1 (No. 619)、公益財団法人日本博物館協会、2019年12月25日、pp. 37-39

■講演会・シンポジウム等

貝塚 健

講演会「永遠の、《子供》と関根正二」福島県立美術館講堂、2019年9月14日

2019教育普及グループ特別ワークショップレクチャー「美術館をめぐる7つのお話(3)コレクションに耳を澄ます」大分県立美術館2階アトリエ、2019年11月2日

令和元年度ミュージアム・マネジメント研修 講義VII「美術館・博物館の倫理規程・行動規範はなぜ必要か」東京国立博物館附属黒田記念館セミナー室(主催:文化庁)、2019年11月29日

笠原美智子

クロストーク「学芸員×美術評論 それぞれの視点で語るアートフェア」(笠原美智子、黒澤浩美、福住廉) 3331 Art Fair、2019年3月8日

トークイベント「How We See Women」(笠原美智子、五所純子、高橋朗) twelvebooks, vacant, 2019年3月15日

トーク・セッション「蔵真墨×笠原美智子」ふげん社、2019年4月27日

学習院大学大学院身体表象文化学専攻主催/学習院大学文学会共催講演会「アートとジェンダー、セクシュアリティ」(笠原美智子、ブブ・ド・ラ・マドレーヌ、森栄喜、溝口彰子) 学習院大学、2019年12月14日

■非常勤講師等

貝塚 健

「学芸員リカレント教育プログラム“博物館・美術館の倫理”」北海道大学大学院文学研究院、2019年7月15日

黒澤美子

学習院女子大学大学院「文化資源情報特殊研究」非常勤講師、春学期(2019年4月~7月)

島本英明

跡見学園女子大学文学部「現代文化表現学研究入門」非常勤講師、2019年6月7日

新畑泰秀

昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科令和元年度歴史文化学科「博物館概論」非常勤講師、2019年7月12日

千葉大学「博物館実習B」非常勤講師、2019年6月9日

■委員・審査員等

貝塚 健

ブリヂストン こどもエコ絵画コンクール審査員、全国美術館会議
災害対策委員、全国美術館会議 美術館運営制度研究部会幹事、
公益信託倫雅美術奨励基金「倫雅美術奨励賞」推薦委員、東京
国立近代美術館 購入等選考委員、公益財団法人大川美術館 収
集委員

笠原美智子

公益財団法人西洋美術振興財団 賞審査委員、公益財団法人周
南市文化振興財団 林忠彦賞選考委員、フォトシティさがみはら
2019選考委員、公益財団法人吉野石膏美術振興財団 評議員、
公益信託タカシマヤ文化基金「タカシマヤ美術賞」候補者推薦委
員、美術評論家連盟 常任委員長、the amana collection コミッ
ティー、信濃美術館 美術館運営専門委員、文化庁 令和元年度芸
術選奨選考審査員

黒澤美子

アート・ドキュメンテーション学会執行役員 幹事、全国美術館会
議 情報資料部会員

新畑泰秀

文化審議会 専門委員、国立西洋美術館 購入委員会価格評価員、
東京都江戸博物館他5施設 施設管理者評価委員会委員、横須
賀美術館 美術品評価委員、富山県美術館 収蔵美術品評価委員、
美術品梱包輸送技能取得士認定試験 審査員

田所夏子

全国美術館会議 機関誌部会員

細矢 芳

こども☆ひかりプロジェクト『ミュージアムキッズ』vol. 9, vol. 10
編集委員

10. 広報事業 | Public Relations

新館名であるアーティゾン美術館や開館記念展を広く周知するために、ニュースリリース発信や記者会見を通じた情報発信を行い新聞・雑誌への記事掲載を図った。さらに、新聞・雑誌広告、交通広告など広告のメディア・ミックスを実践し、より幅広い顧客層への周知を行なった。

To familiarize the general public with the new name of Artizon Museum and announce its inaugural exhibition, we have furnished information by issuing news releases and holding press conferences in order to obtain coverage in newspaper and magazine articles. To reach a broader range of customers, we have also utilized a media mix strategy, combining newspaper and magazine ads, transportation advertising, and other forms of advertising.

プレスリリースの発信

Press Releases

7月5日

アーティゾン美術館入居予定の「ミュージアムタワー京橋」竣工
旧ブリヂストン美術館が入居していたブリヂストンビルは2016年6月から建て替え工事中だったが「ミュージアムタワー京橋」として完成し、7月5日に竣工式を執り行った。アーティゾン美術館は「ミュージアムタワー京橋」の低層部（1階から6階）を占め、正面入口を従来の八重洲通り側から中央通り（銀座通り）側に移し2020年1月に開館する。

July 5

Completion of construction of Museum Tower Kyobashi, future home of the Artizon Museum

The Bridgestone Building, which housed the former Bridgestone Museum of Art, was rebuilt in a project that began in June 2016. It has now been completed. An opening ceremony was held on July 5 for the new building, which is named "Museum Tower Kyobashi." The lower part of Museum Tower Kyobashi is occupied by the Artizon Museum (floors 1 to 6), and the front entrance has been moved from the Yaesu-dori side to the Chuo-dori (Ginza-dori) side. The museum will open in January 2020.

10月1日

開館記念展「見えてくる光景 コレクションの現在地」
2020年1月18日（土）—3月31日（火）

初公開作品31点を含む206点を、2部構成で紹介するという開館記念展の概要と構成、及び関連イベントについて発信した。

石橋財団コレクション 新収蔵作品の紹介

休館期間中も継続的に作品収集を進め、2019年9月までに新収蔵作品184点、芸術家肖像写真コレクション約1,200点から見どころを9つにまとめ紹介した。

October 1

Inaugural Exhibition, *Emerging Artscape: The State of Our Collection*, January 18 to March 31, 2020

We provided information on the concept and composition of the inaugural exhibition, a two-part exhibition of 206 works including 31 that will be shown for the first time, as well as information on related events.

Introducing recent acquisitions in the Ishibashi Foundation Collection

The museum has continued to acquire new works while being closed. We introduced nine highlights from among the recent acquisitions as of September 2019, which include 184 art works and approximately 1,200 works in the collection of portrait photographs of artists.

2020年展覧会スケジュール

開館記念展を初めとした2020年に開催する展覧会の内容と会期をまとめ発信した。

2020 exhibition schedule of Artizon Museum

We provided information on the content and times of exhibitions to be held in 2020, including the inaugural exhibition, which is to begin on January 18.

10月31日

「日時指定予約制」導入とチケット販売開始

開館記念展から「日時指定予約制」を導入するが、11月1日から予約販売を開始するのに先立ち、その前日に予約販売開始の告知を行った。

11月15日

アーティゾン美術館で現代美術展

同時開催で新収蔵クレー 24点を一挙公開

開館記念展に続く展覧会は、6階から4階まで各フロア個別の展覧会を同時開催することによりジャンルの異なる3つの展覧会を一度に楽しめることを訴求した。会期は4月18日―6月21日。

6F ジャム・セッション 石橋財団コレクション×鴻池朋子

「鴻池朋子 ちゅうがえり」

5F 第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展

「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」

4F 特集コーナー展示

「新収蔵作品特別展示：パウル・クレー」

11月19日

クロード・モネ―風景への問いかけ

オルセー美術館・オランジュリー美術館特別企画

7月11日から開催するクロード・モネ展の第1弾リリースを発信し、先行してその概要をメディアに発信した。

October 31

Advance ticket sales to begin tomorrow; Timed entry system to begin with inaugural exhibition

The timed entry system will begin with the inaugural exhibition. We issued a news release the day before advance ticket sales started on November 1.

November 15

Contemporary art exhibitions at Artizon Museum; Twenty-four newly acquired works by Paul Klee to be shown together

Following the inaugural exhibition, the museum will hold a separate exhibition on each of the fourth, fifth, and sixth floors, creating the opportunity to view three exhibitions of different genres in a single visit. These exhibitions will run from April 18 to June 21.

6F Jam Session, The Ishibashi Foundation Collection × Tomoko Konoike

Tomoko Konoike: FLIP

5F Exhibition in Japan of the Japan Pavilion at the 58th International Art Exhibition, La Biennale di Venezia

Cosmo-Eggs

4F Special Section

New Acquisitions: Works by Paul Klee

November 19

Claude Monet: Questioning Nature, a special exhibition from the Musée d'Orsay and Musée de l'Orangerie

We provided a summary to the media in the first news release issued with regard to the Claude Monet exhibition, which is to begin on July 11.

ポスター・チラシ制作

開館記念展のチラシを制作し10月30日に完成した。開館記念展プレスリリースと併せてメディアに送付するとともに、他美術館やギャラリー、大学など790件に送付した。開館記念展ポスターも制作し、11月25日に完成し関係先445件に送付した。

Flyers and Posters

A flyer for the inaugural exhibition was completed on October 30. It was issued to the media along with a news release on the inaugural exhibition, and was also sent in 790 mailings to other museums, galleries and universities, etc. In addition, a poster for the inaugural exhibition was completed on November 25 and sent to 445 recipients.



「開館記念展 見えてくる光景 コレクションの現在地」ポスター

新聞広告

アーティゾン美術館の新館名を広く告知するため、作家をモチーフにした全面広告を、中央紙全国版(朝刊)——朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞・毎日新聞・産経新聞、地方紙(朝刊)——東京新聞・中日新聞・北海道新聞・河北新報・中国新聞・西日本新聞に出稿した。日本経済新聞は9月24日、その他は9月20日。

第2弾としてQRコードを使った全面広告を中央紙首都圏版(朝刊)にて出稿した。毎日新聞は11月22日、朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞は11月28日。



第1弾の作家をモチーフにした全面広告

Newspaper Advertising

To announce the new name of Artizon Museum to the general public, a full-page ad on the theme of authors was published in the national (morning) editions of central newspapers (*Asahi*, *Yomiuri*, *Nikkei*, *Mainichi*, and *Sankei*) and the morning editions of regional newspapers (*Tokyo*, *Chunichi*, *Hokkaido*, *Kahoku*, *Chugoku*, and *Nishinippon*). The ad ran in *Nikkei Shimbun* on September 24, and in the other newspapers on September 20.

As a follow-up, a full-page ad using a QR code was published in the Tokyo (morning) editions of central newspapers. This ad ran on November 22 in *Mainichi Shimbun*, and on November 28 in *Asahi*, *Yomiuri*, and *Nikkei*.



第2弾のQRコードを使った全面広告

雑誌広告

アーティゾン美術館の新館名を広く告知するため、美術専門誌のみならず様々な雑誌に広告を出稿した。

2019年10月号掲載【作家編】

『日経ビジネス』(10月28日号)

2019年11月号掲載【作家編】

『芸術新潮』、『Pen』(11月15日号)、『Agora』(JAL会員誌)、『Skyward』(JAL機内誌)

2019年12月号掲載【作家編】

『芸術新潮』、『ブルータス』(12月1日号)、『カーサブルータス』、『AXIS』、『ana-logue』(ANA会員誌)、『翼の王国』(ANA機内誌)

2020年1月号掲載【開館記念展】

『日経おとなのOFF 絶対に見逃せない2020年美術展』(日経トレンド1月号増刊)

タイアップ記事

「特別企画: プリチストン美術館あらためアーティゾン美術館いよいよオープン!」『芸術新潮』1月号、新潮社、2020年、pp. 182-189

Magazine Advertising

To announce the new name of Artizon Museum to the general public, ads were published in a wide range of magazines which were not limited to art magazines.

October 2019 issue [author-themed ad]

Nikkei Business (Oct. 28 issue)

November 2019 issue [author-themed ad]

Geijutsu Shincho, *Pen* (Nov. 15 issue), *Agora* (JAL member magazine), and *Skyward* (JAL in-flight magazine)

December 2019 issue [author-themed ad]

Geijutsu Shincho, *Brutus* (Dec. 1 issue), *Casa Brutus*, *Axis*, *ana-logue* (ANA member magazine), and *Tsubasa Global Wings* (ANA in-flight magazine)

January 2020 issue [inaugural exhibition ad]

Nikkei Otona no Off (Jan. extra edition)

Tie-in Article

Geijutsu Shincho (January 2020 issue), pp. 182-189

The advertisement for Artizon Museum is a vertical collage. At the top, it features the logo of the Ishibashi Foundation (ip ISHIBASHI FOUNDATION) on a red background. Below this, there are several smaller images: a man in a suit, a woman in a dress, and various art-related scenes. A prominent red box contains the text: "新しい美術館が誕生します。2020年1月、東京。" (A new museum is born. January 2020, Tokyo). Another red box contains the text: "時代と新り結んだアーティストがいる。" (There are artists who have combined with the times). At the bottom, the name "ARTIZON MUSEUM" is written in large, bold, white letters on a dark background. Below the name, it says "プリチストン美術館はアーティゾン美術館へ" (Prichiston Museum is Artizon Museum) and provides the website "www.artizon.museum" and contact information.

『芸術新潮』『日経ビジネス』『ブルータス』に出稿した作家編イメージ広告

交通広告

開館記念展を広く告知するために、2019年12月から2020年1月までの2カ月間交通広告を展開。JR山手線を中心に首都圏にて駅ボード95駅100面、東京メトロ駅ボード15駅20面に開館記念展ポスターを掲出。



JR「東京駅」山手線ホーム

Transportation Advertising

To announce the inaugural exhibition to the general public, we placed transportation ads from December 2019 to January 2020, showing posters for the inaugural exhibition on 100 boards at 95 JR stations in the Tokyo area and 20 boards at 15 Tokyo Metro stations.



JR「有楽町駅」山手線ホーム



東京メトロ大手町駅構内



東京メトロ「六本木駅」日比谷線ホーム

その他の広報活動

WEB広告

従来の印刷媒体に加え、主に若年層へのリーチを狙い、Tokyo Art BeatにWEB広告(開館記念展広告)を12月に出稿した。

ICOM京都大会でのブース運営

9月1日から9月7日まで開催された第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019に石橋財団が助成し、財団、アーティゾン美術館を訴求するブースを9月1日から9月3日にて出展した。

世界各国の博物館・美術館関係者約4,600人が参加し大いに賑わったが、石橋財団ブースには秋篠宮皇嗣同妃両殿下も訪れ興味深く説明を聴いて頂いた。

Other Public Relations Activities

Online Advertising

In addition to conventional print media, we placed online advertising with Tokyo Art Beat, primarily targeting young people (inaugural exhibition ad) on December.

Booth at ICOM Kyoto Conference

The Ishibashi Foundation provided financial support to the 25th Conference of the International Council of Museums (ICOM), which was held in Kyoto from September 1 to September 7. A booth promoting the Artizon Museum was operated from September 1 to September 3. The booth was very popular, and participants included about 4,600 people from museums and art galleries from all over the world. Prince Akishino and Princess Kiko also visited the booth of the Ishibashi Foundation and listened to the explanations with interest.



ICOM京都大会でのブース

11. ウェブサイト刷新

旧ブリヂストン美術館のウェブサイトより、館名変更とともに公式ホームページを刷新。段階的にトップページを更新、同時にコンテンツも充実させ、情報発信を頻繁におこなった。

特に重要な更新となったのは、11月1日より開始した日時指定予約制導入によるウェブ予約チケットの予約サイトの公開である。11月中旬には新聞広告にQRコードを使用した広告を中央紙首都圏版の朝刊(11月22日:毎日新聞、11月28日:日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞)に展開し、サイトへの直接的な誘導を試みた。その結果、通常1日5,000前後であるPV数が、新聞3社へ広告を打ち出した11月28日には111,374となり、新ウェブサイトになってから最高数を記録した。

ウェブサイト更新履歴

7月1日 アーティゾン美術館ティザーサイト立ち上げ



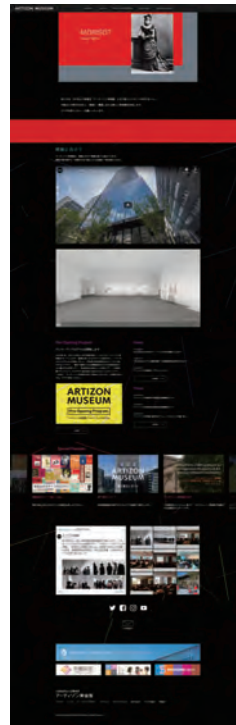
トップページ全体



ロゴを打ち出し、館名変更を訴求

9月18日 広告展開に合わせたトップページの更新

新聞広告にて展開される作家の肖像写真を扱った広告に合わせて、トップページに広告のヴィジュアルを使った動画を掲載。



広告に合わせた、トップページの動画バナー。https://www.youtube.com/watch?v=BF9Tqwbw6w

10月1日 開館準備サイトリニューアル

開館記念展「見えてくる光景 コレクションの現在地」PRサイト公開、オンラインショップにてカレンダー販売開始。



開館記念展の見どころを公開

開館準備サイトトップページ



カレンダーの購入サイトにつながる予約バナーは新収蔵作品の画像を背景に制作

12. 刊行物一覧

石橋財団コレクション 所蔵品目録 1952–2018
Catalogue of the Collection, Ishibashi Foundation 1952-2018

内容:

ごあいさつ | Foreword

第1章 西洋美術 | Chapter 1: Western Art

第2章 日本美術 | Chapter 2: Japanese Art

第3章 その他 | Chapter 3: Others

編集: 石橋財団アーティゾン美術館

翻訳: ルシー・S. マクレリー

協力: 株式会社ユニフォトプレスインターナショナル

制作・デザイン: 株式会社美術出版社 デザインセンター

印刷: 光村印刷株式会社

発行: 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

310×230 mm 総428ページ

館報67号(2018年度)

Annual Report of Bridgestone Museum of Art. No. 67 (2018)

内容:

設立趣旨、機構・運営 | Brief History of the Museum, Organization and Management

新美術館の準備

館外展

教育普及

図書公開

新収蔵作品 | New Acquisitions

新収図書

修復記録

作品貸出記録

刊行物一覧

研究報告

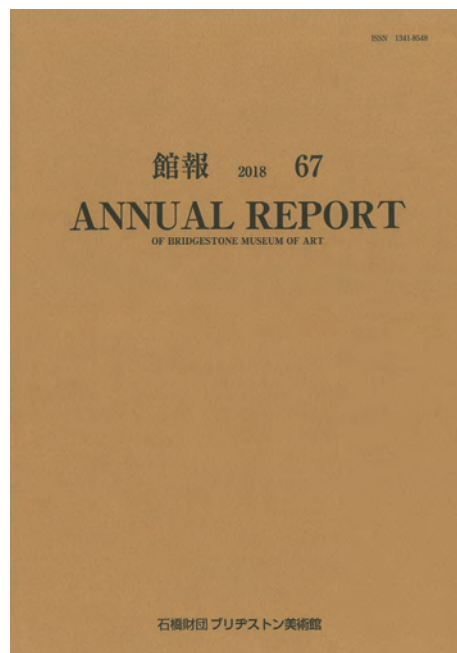
美術館案内 | Guide to the Museums

公益財団法人石橋財団職員

編集・発行: 石橋財団ブリヂストン美術館(2019年3月)

印刷: モリモト印刷株式会社

260×190 mm 総81ページ ISSN 1341-8584



寄付助成事業



1. 概要

石橋財団は1956年の財団創設時より寄付助成事業に継続して取り組んでいる。

財団創設者の石橋正二郎は、若年の頃から文化の向上発展を目指し、地域・国・国際交流の視点に立って、生涯にわたり数々の文化事業を支援してきた。寄付助成事業では、創設者の文化事業に対する意思を受け継ぎ、芸術・文化・教育の分野を通じて、人間性豊かな社会を創る活動を支援している。特に近年は、我が国及び海外での芸術文化振興と交流を促すために行う関連団体及び学会等への助成事業を継続し、各分野で新たな貢献活動を展開する団体の発掘に努めている。

2017年より新たに開始した人材育成に関わる国際的活動の支援としては、修士・博士の学生を対象とする米国の美術館における日本美術史キュレーター育成事業、英国の大学で日本学を学ぶサマーカーコース、さらにキュレーターや研究者を対象とする日本現代美術の交流事業、フェローシップ制度があげられる。これらのプログラムは順次運用が開始され、学術的な成果のみならず国際的なネットワークが形成されるなど、確実な成果を得られつつある。今後もその検証を行いながら、さらなる発展を目指し取り組んでいく。

■ 寄付助成事業実績(2010～2019)

年 Year	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
助成件数 Number	24	35	40	40	38	34	33	38	35	32
金額 Amount	83	153	134	147	268*1	435*2	419*3	197	243	216

(金額の単位は100万円 / 1 million yen)

*1 国際交流基金(ヴェネチアビエンナーレ日本館)への特別助成を含む

*2 久留米市美術振興基金への特別助成を含む

*3 久留米市への特別助成を含む

2. 2019年度寄付助成実績一覧

区分	助成先	助成内容
[芸術]	日仏美術学会	日仏美術学会報第38号刊行
	ジャポニズム学会	ジャポニズム学会報39号刊行
	地中海学会	地中海学会報『地中海学研究』42号刊行
	国際浮世絵学会	国際浮世絵学会会誌178号、179号刊行
	公益財団法人 久留米文化振興会	「ショパン200年の肖像」展の開催
	国立大学法人 東京大学 大学院教育学研究科 (岡田猛研究室)	「触発と創造のための鑑賞」の方法論の構築
	ハイデルベルク大学東洋美術史研究所	日本美術を専門とする客員教授の招聘
	独立行政法人 国際交流基金	ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の実施
	東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻	教育システムのプログラムの基盤開発
	ミラノ大学	日本美術書籍の寄贈
	仏教芸術学会	学会誌『仏教芸術』の刊行
	フランス国立美術史研究所	フォンテーヌブロー美術史フェスティバルの開催
	ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館	「JAPAN SUPERNATURAL」展の開催
アッシュモolean博物館	「TOKYO: Art & Photography」展の開催	
[文化]	明治美術学会	機関誌『近代画説』28号刊行
	公益財団法人 日本インダストリアルデザイナー協会	JIDAデザインミュージアム セレクション Vol. 21 図録発行
	公益財団法人 日本近代文学館	文学者の自作朗読による声のライブラリー制作
	日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ	日本美術関係者の口述資料収集、保存、記録の公開、過去データの整理事業
	公益財団法人 日仏会館	国際シンポジウム開催
	久留米市	石橋文化会館南面外壁改修工事
	NPO法人 建築思考プラットフォーム	日本のデザインアーカイブ実態調査
	English Heritage	「ストーンヘンジと日本」展の開催
	NPO法人 東北の造形作家を支援する会	心の復興事業/東京発表会の開催
[教育]	学校法人 日本聾話学校	100周年特別事業: 校舎老朽化に伴う改修工事
	全日本中学校道徳教育研究会	第53回全国中学校道徳教育研究会全国大会開催他
	公益財団法人 国際日本語普及協会	在住外国人日本語支援のためのIT環境整備、教材開発
	特定非営利活動法人 東京シュレ	フリースクールスタッフ養成・創業支援プログラム
	公益財団法人 日本国際教育支援協会	「JES・石橋財団奨学金」冠奨学金事業
	ボストン美術館	日本美術史キュレーター育成プログラム
	イーストアングリア大学	日本学サマーコース(修士レベル)プログラムの実施
	独立行政法人 国際交流基金(人材育成1)	日本美術専門家育成 現代美術キュレーター等交流事業
	独立行政法人 国際交流基金(人材育成2)	日本美術専門家育成 日本美術リサーチフェローシップ

日本近代文学館

助成対象活動: 文学者の自作朗読による声のライブラリーの制作
日本近代文学館は、文学資料を収集・保存する施設として1967年に開館し、近代文学に関する総合資料館、専門図書館として、文学資料の収集・保存・公開と文芸・文化の普及・発展のために活動している。

声のライブラリーは、日本近代文学館で開催される文学者の自作朗読会をビデオに収録し声と映像の文学資料として保存・公開するものであり、1995年に開始され2020年2月に100回となる。



地中海学会

助成対象活動: 学会報『地中海学研究』42号の刊行

地中海学会は、地中海・環地中海域を総合的に研究する場、および種々の関連分野間の交流の場として1977年設立された。

学会報『地中海学研究』は、学会報論文・書評などを掲載した学術雑誌である。1978年より毎年刊行されている。(年刊)

明治美術学会

助成対象活動: 機関誌『近代画説』28号の刊行

明治美術学会は、日本近代美術の研究・調査を目的として1984年に設立された。機関誌『近代画説』は、日本近代美術を専門とする唯一の論文誌である。当初は研究会の資料として少部数配布されてきたが、1992年より学会機関誌として毎年刊行されている。(年刊)

仏教芸術学会

助成対象活動: 学会誌『仏教芸術』の刊行

仏教芸術学会は、仏教をはじめとするアジアの宗教に関わる絵画、彫刻、工芸、建築などの諸芸術および考古学に関する研究発表の場を提供し、その研究の発展に寄与することを目的として設立された。現在の学会誌の前身である『佛教藝術』は1948年から70年間刊行されてきたが、2017年1月に350号をもって休刊となった。新しい学会誌『仏教芸術』はその活動を継承し2018年秋に刊行されたものである。





2019年4月に「(社)京橋彩区エリアマネジメント」が設立され、石橋財団は準会員として活動に参画している。

「京橋彩区」は2019年7月に竣工した「ミュージアムタワー京橋」と2024年に竣工予定の「(仮称)新TODAビル」という二つのビルの文化貢献施設と中央通りに面して新設される広場により構成される施設である。

「京橋彩区」は2019年10月から、活動の一環としてアート・デザイン・ものづくり関係の有識者による講演会「芸術文化講座」をミュージアムタワー京橋内のカフェを会場に開講している。第3回となる12月の講座はアーティゾン美術館教育普及部長の貝塚健が、59名の参加者を前に「アーティゾン美術館ものがたり—引き継がれるものと新たな出発」と題して講演を行った。

今後も、必要に応じて「京橋彩区」の活動に協力、参画していく予定である。



第3回「芸術文化講座」での当館・貝塚教育普及部長による講演風景

公益財団法人石橋財団

所在地 2019年8月末まで
東京都港区麻布永坂町1番地 〒106-0043
2019年9月より
東京都中央区京橋1-7-2 〒104-0031

アーティゾン美術館

*2015年5月18日から2020年1月17日まで長期休館

所在地 2019年8月末まで
(銀座事務所)
東京都中央区銀座1-19-7 〒104-0061
銀座一丁目 イーストビル7階
2019年9月1日より
東京都中央区京橋1-7-2 〒104-0031

URL <https://www.artizon.museum>

Ishibashi Foundation

Address Until the end of August 2019
1, Azabu Ngasaka-cho, Minato-ku, Tokyo
106-0043, Japan
From September 1, 2019
1-7-2 Kyobashi, Chuo-ku Tokyo 104-0031, Japan

Artizon Museum

*The Museum was closed for reconstruction from May 18, 2015 to January 17, 2020.

Address Until the end of August 2019
(Ginza Office)
7F, Ginza 1-chome East Bldg., 1-19-7 Ginza,
Chuo-ku, Tokyo 104-0061, Japan
From September 1, 2019
1-7-2 Kyobashi, Chuo-ku Tokyo 104-0031, Japan

石橋財団アトリサーチセンター

所在地 東京都町田市小山ヶ丘2-1-14 〒194-0215
URL <https://www.artizon.museum/arc/>
*イベント開催時、およびライブラリーは事前予約制にて開室

Ishibashi Foundation Art Research Center

Address 2-1-14, Oyamagaoka, Machida-shi Tokyo
194-0215, Japan
*By appointment only

石橋財団職員

事務局

事務局長	浦見 忠
経理課長	浦見 忠 (兼) 田村 嘉晃
総務課長	菊地 浩 鈴木 弥生
情報システム課長	直塚 俊介 川崎 智央
寄付助成グループ	鈴木 万利子
常務理事付	山内 和徳

アーティゾン美術館

館長	石橋 寛
副館長	笠原 美智子
広報部長	川瀬 暁
広報課長	川瀬 暁 (兼) 松浦 彩 小川 めぐみ
クリエイティブディレクター	田畑 多嘉司 秋本 真奈帆
出版課長	田畑 多嘉司 (兼) 秋本 真奈帆 (兼)
管理部長	浦見 忠 (兼)
管理課長 (ARC担当)	菊地 浩 (兼)
管理課長	小藪 泰生 石川 久子 小原 田鶴子
学芸課長	新畑 泰秀
学芸担当課長	平間 理香 賀川 恭子 田所 夏子 伊藤 絵里子 島本 英明 黒澤 美子 原 小百合 上田 杏菜
教育普及部長	貝塚 健 細矢 芳 江藤 祐子

(2019年12月31日現在)

カバー
アーティゾン美術館3階メインロビー
ワイヤーオブジェ《FOAM》
デザイン:TONERICO:INC.

公益財団法人石橋財団 アニュアル・レポート 2019

Annual Report 2019, Ishibashi Foundation

編集 公益財団法人 石橋財団

Edited by Ishibashi Foundation

デザイン 梯 耕治

Designed by Kakehashi Koji

制作 株式会社印象社

Produced by Insho-sha

印刷 光村印刷株式会社

Printed by Mitsumura Printing Co., Ltd.

発行日 2020年2月29日

Date of issue February 29, 2020

発行 公益財団法人 石橋財団
〒104-0031 東京都中央区京橋1-7-2

Published by Ishibashi Foundation
1-7-2 Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan

*本書の全部または一部を無断で転載・複製することを禁じます。

© Ishibashi Foundation 2020

